

PowerShot SX400 IS カメラユーザーガイド

日本語

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」(11)をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

- 右下のボタンをクリックすると、ページを移動できます。
 - ▶ : 次のページ
 - ◀ : 前のページ
 - 🔗 : リンクをクリックする直前に表示していたページ
- 右端にある章のタイトルをクリックすると、各章の先頭ページに移動します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

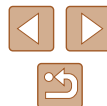
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



お使いになる前に

最初にお読みください

カメラと付属品の確認

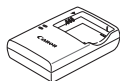
お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ



バッテリーパック
NB-11LH*



バッテリーチャージャー
CB-2LF



リストストラップ



レンズキャップ
(ひも付き)

* バッテリーに外装として貼り付けられているラベルは、はがさないでください。

- 上記のほか、印刷物一式が入っています。
- メモリーカードは付属されていません (P.2)。

使えるカード (市販品) について

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

- SD (エスディー) メモリーカード*
- SDHC (エスディーエイチシー) メモリーカード*
- SDXC (エスディーエックスシー) メモリーカード*



- Eye-Fi (アイファイ) カード

* SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

Eye-Fi カードについて

本製品は、Eye-Fi カードの機能 (無線送信を含む) を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。

また、Eye-Fi カードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

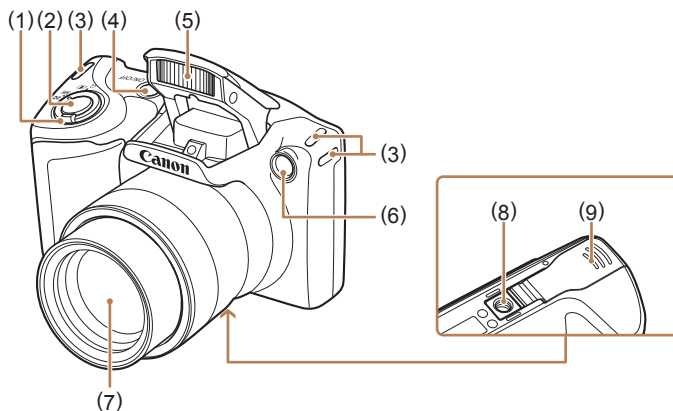
索引



お使いになる前にお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一、カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。

各部のなまえと記載について



- | | |
|--|--------------------|
| (1) ズームレバー
撮影時：[] (望遠) /
[] (広角)
再生時：[Q] (拡大) /
[] (インデックス) | (4) 電源ボタン |
| (2) シャッターボタン | (5) ストロボ |
| (3) ストラップ取り付け部 | (6) ランプ (前面) |
| | (7) レンズ |
| | (8) 三脚ねじ穴 |
| | (9) カード/バッテリー収納部ふた |

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

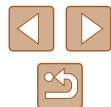
5 再生モード

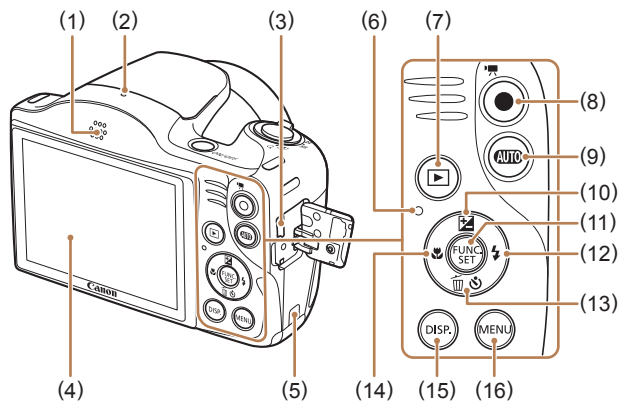
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- (1) スピーカー
- (2) マイク
- (3) A / V OUT (映像 / 音声出力) ・ DIGITAL (デジタル) 端子
- (4) 画面 (液晶モニター)
- (5) DC カプラー用ケーブル通し部
- (6) ランプ (背面)
- (7) [▶ (再生)] ボタン
- (8) 動画ボタン
- (9) [AUTO (オート)] ボタン
- (10) [☒ (露出補正)] / 上ボタン
- (11) FUNC./SET (ファンクション / セット) ボタン
- (12) [⚡ (ストロボ)] / 右ボタン
- (13) [⌚ (セルフタイマー)] / [⏪ (1 画像消去)] / 下ボタン
- (14) [👁 (フォーカスゾーン)] / 左ボタン
- (15) [DISP. (ディスプレイ)] ボタン
- (16) [MENU (メニュー)] ボタン

- カメラのボタンは、ボタンに表記されている絵文字を使って示しています。
- 次の操作部材は、絵文字で示しています。
 [▲] 背面 (10) 上ボタン
 [◀] 背面 (14) 左ボタン
 [▶] 背面 (12) 右ボタン
 [▼] 背面 (13) 下ボタン

- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[] つきで示しています。
- ① : 知っておいていただきたい重要事項を示しています。
- ✎ : 上手に使うためのヒントや補足事項を示しています。
- 📖xx : 参照ページを示しています。xx はページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
- タイトルの下にある「▶ 静止画」「▶ 動画」は、その機能が静止画や動画を撮るときや見るときに使えるかを示しています。

お使いになる前に
基本編
活用編
1 カメラを知る
2 オートモード
3 いろいろな撮影モード
4 Pモード
5 再生モード
6 設定メニュー
7 アクセサリー
8 付録
索引



目次

お使いになる前に

最初にお読みください.....	2
カメラと付属品の確認.....	2
使えるカード（市販品）について.....	2
Eye-Fi カードについて.....	2
お使いになる前にお読みください.....	3
各部のなまえと記載について.....	3
やりたいこと目次.....	10
安全上のご注意.....	11

基本編

カメラの基本操作.....	14
準備する.....	14
付属品を取り付ける.....	14
カメラを構える.....	15
バッテリーを充電する.....	15
バッテリーとカードを入れる.....	16
バッテリーとカードを取り出す.....	16
日付／時刻を設定する.....	17
日付／時刻を変える.....	17
表示言語を選ぶ.....	18
使ってみる.....	19
撮る（こだわりオート）.....	19
見る.....	20
消す.....	21

活用編

1 カメラを知る.....	22
電源の入れかた／切りかた.....	22
節電機能（オートパワーオフ）.....	23
撮影モードでの節電機能.....	23
再生モードでの節電機能.....	23
シャッターボタンの押しかた.....	23
撮影時の画面表示の切り換えかた.....	24
FUNC.（ファンクション）の表示と操作方法.....	24
MENU（メニュー）の表示と操作方法.....	25
ランプの表示.....	26
時計機能.....	27
2 オートモード.....	28
カメラまかせで撮る.....	28
オートモードで撮る（こだわりオート）.....	28
静止画／動画.....	30
静止画.....	30
動画.....	30
シーンのアイコン.....	31
手ブレ補正アイコン.....	32
画面に表示される枠.....	32
よく使う機能や便利な機能を使う.....	33
被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）.....	33
セルフタイマーを使う.....	33
セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ.....	34
セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える.....	34
日付を写し込む.....	35
連続して撮る.....	35
自分好みの画像を撮るための機能を使う.....	36
縦横比（アスペクト比）を変える.....	36

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



記録画素数（画像の大きさ）を変える.....	37
用紙の大きさと選ぶときの目安 （縦横比 4:3 のとき）.....	37
赤目自動補正.....	37
動画の画質を変える.....	38
撮影の手助けとなる機能を使う.....	38
グリッドラインを表示する.....	38
ピント位置を拡大表示する.....	39
目をつむった人を確認する.....	39
自分好みに機能を変える.....	40
AF 補助光（ランプ）を切る.....	40
赤目緩和機能（ランプ）を切る.....	40
撮影直後の画面表示を変える.....	40
撮影直後の画像表示時間を変える.....	40
撮影直後に表示される画面を変える.....	41
3 いろいろな撮影モード.....	42
かんたんに明るさ、あざやかさ、色あいを变更后撮る （ライブビューコントロール）.....	42
いろいろなシーンで撮る.....	43
効果をつけて撮る.....	44
魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）.....	44
ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）.....	45
倍速と再生時間の目安（動画を 1 分間 撮影したとき）.....	45
トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）.....	46
単色で撮る（モノクロ）.....	46
特殊なモードでいろいろな画像を撮る.....	47
人が増えたら撮る（顔セルフトイマー）.....	47
長秒時露光で撮る（長秒時撮影）.....	47
4 P モード.....	49
プログラム AE で撮る（[P] モード）.....	49

明るさ（露出）に関する機能を使う.....	50
明るさを変える（露出補正）.....	50
明るさ（露出）を固定する（AE ロック）.....	50
測光方式を変える.....	51
ISO 感度を変える.....	51
明るさを補正して撮る（i-コントラスト）.....	52
色に関する機能を使う.....	52
色あいを調整する（ホワイトバランス）.....	52
マニュアルホワイトバランス.....	53
画像の色調を変える（マイカラー）.....	53
カスタムカラー.....	54
撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う.....	54
近くの被写体を撮る（マクロ撮影）.....	54
遠くの被写体を撮る（遠景撮影）.....	55
デジタルテレコンバーターを使う.....	55
AF フレームモードを変える.....	55
中央.....	55
顔優先 AiAF.....	56
ピントを合わせたい被写体を選んで撮る （キャッチ AF）.....	56
サーボ AF で撮る.....	57
フォーカス設定を切り換える.....	57
AF ロックで撮る.....	58
ストロボに関する機能を使う.....	58
ストロボモードを変える.....	58
オート.....	58
常時発光.....	58
スローシンクロ.....	58
発光禁止.....	59
FE ロックで撮る.....	59
撮影スタイルにあわせて機能を変える.....	59
圧縮率（画質）を変える.....	59

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



手ブレ補正の設定を変える	60
撮影前の画面と同じ大きさを動画で撮影する	60
5 再生モード	61
見る	61
表示を切り換える	62
高輝度（ハイライト）警告	62
ヒストグラム	63
画像を探したり、特定の画像だけを見る	63
一覧表示（インデックス表示）で画像を探す	63
指定した条件で画像を探す	64
いろいろな方法で画像を見る	65
拡大して見る	65
スライドショーで見る	65
設定を変える	65
いろいろな画像を表示する（連想再生）	66
保護する	67
メニューから操作する	67
1枚ずつ指定する	67
範囲で指定する	68
すべての画像を保護する	69
すべての画像の保護を解除する	69
消す	69
まとめて消す	69
指定方法を選ぶ	69
1枚ずつ指定する	70
範囲で指定する	70
すべての画像を指定する	70
回転する	71
メニューから操作する	71
自動回転機能を切る	71

お気に入り設定をする	72
メニューから操作する	72
静止画を編集する	73
画像を小さくする（リサイズ）	73
画像を切り抜く（トリミング）	73
画像の色調を変える（レタッチマイカラー）	74
明るさを補正する（i-コントラスト）	75
赤目を補正する	75
動画を編集する	76
6 設定メニュー	77
カメラの基本機能を変える	77
音を鳴らさない	77
音量を変える	77
機能の説明を表示しない	78
日付／時刻を変える	78
世界時計を使う	78
レンズ収納時間を変える	79
エコモードを使う	79
節電機能（オートパワーオフ）の設定を変える	79
画面の明るさを変える	80
起動画面を表示しない	80
カードを初期化する	80
カードを物理フォーマット（初期化）する	81
画像番号のつけかたを変える	81
フォルダを撮影日ごとに作る	82
認証マークを確認する	82
表示言語を変える	82
その他の基本機能を変える	82
カメラの設定を初期状態に戻す	83

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

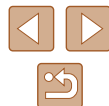
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



7 アクセサリー	84
システムマップ.....	84
別売アクセサリー.....	85
電源.....	85
ストロボ.....	86
その他.....	86
プリンター.....	86
別売アクセサリーの使いかた.....	87
テレビで見る.....	87
家庭用電源でカメラを使う.....	87
ソフトウェアを使う.....	89
ソフトウェアについて.....	89
ソフトウェアの使用説明書.....	89
パソコンの環境を確認する.....	89
インストールする.....	90
画像をパソコンに取り込む.....	90
印刷する.....	92
かんたん印刷.....	92
印刷設定をする.....	93
画像を切り抜いて印刷する（トリミング）.....	93
用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する.....	94
レイアウトで設定できる項目.....	94
証明写真を印刷する.....	94
動画を印刷する.....	95
動画の印刷方法.....	95
印刷指定（DPOF）.....	95
印刷内容を指定する.....	95
1枚ずつ枚数を指定する.....	96
範囲で指定する.....	97
すべての画像を指定する.....	97
すべての指定を解除する.....	97
印刷指定（DPOF）した画像を印刷する.....	97

フォトブック指定.....	97
指定方法を選ぶ.....	97
1枚ずつ指定する.....	98
すべての画像を指定する.....	98
すべての指定を解除する.....	98
Eye-Fi カードを使う.....	99
通信情報を確認する.....	99
Eye-Fi 通信をしない.....	100
8 付録	101
故障かな？と思ったら.....	101
画面に表示されるメッセージ一覧.....	104
画面の表示内容一覧.....	105
撮影時（情報表示あり）.....	105
バッテリーの残量表示.....	106
再生時（詳細情報表示）.....	106
動画操作パネル一覧.....	107
機能／メニュー一覧.....	107
撮影機能一覧.....	107
FUNC. メニュー一覧.....	108
撮影タブメニュー一覧.....	110
設定タブメニュー一覧.....	112
再生タブメニュー一覧.....	113
印刷タブメニュー一覧.....	113
再生モードの FUNC. メニュー一覧.....	113
日ごろの取り扱いについて.....	114
主な仕様.....	114
カメラの仕様について.....	114
デジタルズームの焦点距離 （35mm フィルム換算）.....	115
撮影できる枚数・時間、再生できる時間.....	115
1枚のカードに撮影できる枚数.....	115

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



1枚のカードに撮影できる時間.....	116
ストロボ調光範囲.....	116
撮影距離.....	116
連続撮影の速さ.....	116
シャッタースピード.....	116
絞り.....	116
バッテリーパック NB-11LH.....	117
バッテリーチャージャー CB-2LF.....	117
索引.....	118
アフターサービス期間について.....	121
商標、ライセンスについて.....	121
このガイドについて.....	121
製品取り扱い方法に関するご相談窓口.....	122
修理受付窓口.....	122
キャノンデジタルカメラホームページのご案内.....	122

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



やりたいこと目次

📷 撮る

- カメラまかせで写真を撮りたい (オートモード)
- 428

人を上手に撮りたい



人をきれいに
(43)



雪景色で
(43)

いろいろなシーンにあわせて撮りたい



暗い場所で
(43)



花火
(43)

効果をつけて撮りたい



鮮烈な色で
(44)



イラスト風に
(44)



魚眼レンズのように
(44)



ミニチュア模型のように
(45)



トイカメラ風に
(46)



モノクロで
(46)

- 自分好みに効果をつけて撮りたい (ライブビューコントロール)
- 42
- 人の顔を上手に撮りたい
- 28、43、56
- ストロボ禁止の場所で撮りたい (ストロボ発光禁止)
- 28
- 自分も一緒に写りたい (セルフタイマー撮影)
- 33、47
- 画像に日付を写し込みたい
- 35

📺 見る

- 画像を見たい
- 61
- 自動再生で見たい (スライドショー)
- 65
- テレビで見たい
- 87
- パソコンで見たい
- 89
- 画像を素早く探したい
- 63
- 画像を消したい
- 69

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



📷 動画を撮る／見る

- 動画を撮りたい
 - 28
- 動画を見たい
 - 61

🖨️ 印刷する

- 写真を印刷したい
 - 92

💻 残す

- 画像をパソコンに保存したい
 - 90

安全上のご注意

- ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせて参照してください。



警告

死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- ストロボを人の目に近づけて発光しない。視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。
- お子様や幼児の手の届くところで保管しない。ストラップを誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。電源コードを使用する製品では、電源コードを誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。
- 指定外の電源は使わない。
- 分解、改造したり、加熱しない。
- 外装としてラベルが貼り付けられているバッテリーでは、ラベルをはがさない。
- 落とすなどして強い衝撃を与えない。
- 落下などで破損したときは、内部には触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリ

8 付録

索引



- 液体で濡らしたり、内部に液体や異物を入れない。感電、火災の原因となります。液体で濡れたり、内部に液体や異物が入ったときは、バッテリーや電池を使用する製品では、それらを取り外し、家庭用電源を使用する製品では、コンセントから抜いてください。

- ファインダーがある製品では、ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。視力障害の原因となることがあります。

- 家庭用電源を使用する製品では、雷が鳴り出したら製品に触れない。感電、火災の原因となります。すぐに使用をやめ、製品から離れてください。

- 指定外のバッテリーや電池は使わない。

- バッテリーや電池は火に近づけたり、火の中に投げ込まない。バッテリーや電池が破裂や液漏れし、感電、けが、火災の原因となることがあります。漏れた電解液が、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- バッテリーチャージャーを使用する製品では、次のことに注意する。
 - 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。
 - 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。
 - 電源コードを使用する製品では、電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工しない。

感電、火災の原因となります。

- カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

- 長時間、身体と同じ部位に触れたまま使わない。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。



注意

傷害を負う可能性がある内容です。

- ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押ししたり、ぶつけたりしない。けがやカメラの故障の原因となることがあります。

- 液晶モニターに強い衝撃を与えない。液晶モニターが割れると、破片でけがをすることがあります。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。やけどや故障の原因となることがあります。

- 次の場所で使用・保管しない。

- 直射日光のあたるところ
- 40℃を超える高温になるところ
- 湿気やホコリの多いところ

バッテリーや電池の液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。

発熱、破損により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。



- 長時間画面を見ていると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。
- 別売のオプションレンズ、レンズフィルター、フィルターアダプターを使用する製品では、確実に取り付ける。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- ストロボが自動昇降する製品では、ストロボが下がるときに指をはさまないようにする。けがの原因となることがあります。

注意

物的損害を負う可能性がある内容です。

- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けない。撮像素子やカメラの内部が損傷することがあります。
- 砂浜や風の強い場所で使用するときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。
- ストロボが自動昇降する製品では、ストロボを押し込んだり、つまみ上げたりしない。故障の原因となることがあります。
- ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。
- 使用しないときは、製品からバッテリーや電池を取り外して保管する。液漏れにより故障の原因となることがあります。
- バッテリーや電池を廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- バッテリーチャージャーを使用する製品では、使用しないときはコンセントから外す。また、布などをかけたまま使用しない。長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。
- 専用バッテリーを使用する製品では、ペットの近くにバッテリーを置かない。バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。
- 複数の電池を使用する製品では、充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使用しない。また、電池の「+」「-」端子を逆に入れて入れない。故障の原因となることがあります。
- ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。液晶モニターの破損の原因となります。
- かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。また、液晶モニターが閉じられる製品では、液晶モニターを内側に向けて閉じる。
- ストラップにアクセサリを付けない。硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



基本編

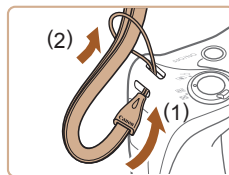
カメラの基本操作

準備から、撮影、再生までの説明や、各種の基本情報を掲載しています。

準備する

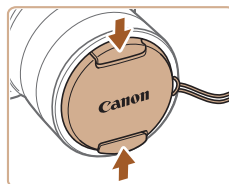
ここでは、撮影前の準備について説明します。

付属品を取り付ける



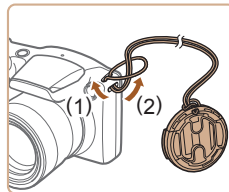
1 ストラップを取り付ける

- (1) ストラップの先端を取り付け部に通して、(2) 通した先端にストラップを通します。



2 レンズキャップを取り付ける

- レンズキャップをいったんレンズからはずしてから、(1) ひもの先端を取り付け部に通して、(2) 通した先端にレンズキャップを通します。
- カメラの電源を入れる前に、必ずレンズキャップを外してください。
- カメラを使わないときは、レンズキャップを取り付けて保管してください。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

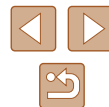
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



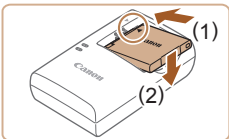
カメラを構える



- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボを上げているときは、ストロボに指がかからないようにしてください。

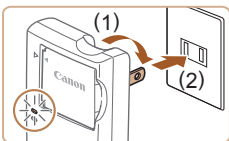
バッテリーを充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、付属のバッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。



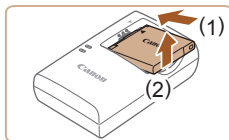
1 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、(1)の方向へ押しながら、(2)の方向へ取り付けます。



2 充電する

- プラグを(1)の方向へおこして、(2)コンセントに差し込みます。
- 充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、ランプが緑色に点灯します。



3 バッテリーを取り外す

- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、(1)の方向へ押しながら、(2)の方向へ取り外します。



- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。



- 充電に必要な時間、フル充電したバッテリーで撮影できる枚数と時間については、「撮影できる枚数・時間、再生できる時間」(P115)を参照してください。
- 充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減るため、充電は使う前日か当日にしてください。
- バッテリーチャージャーは、AC100 - 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

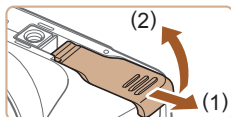
8 付録

索引



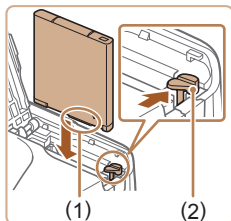
バッテリーとカードを入れる

付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。なお、新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）（[80](#)）することをおすすめします。



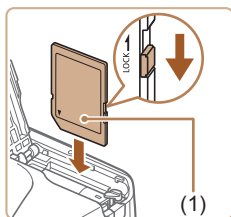
1 ふたを開ける

- (1) の方向にふたを動かして、(2) の方向へふたを開けます。



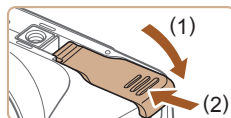
2 バッテリーを入れる

- バッテリーの端子部 (1) を図の向きにして、バッテリーロック (2) を矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。



3 カードのスイッチを確認して、カードを入れる

- スイッチがあるカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると撮影できません。スイッチを解除側に動かします。
- カードのラベル面 (1) を図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。



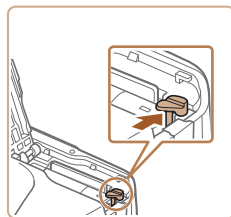
4 ふたを閉める

- ふたを (1) の方向にたおして押さえたまま、(2) の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。



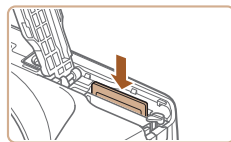
- 1 枚のカードに撮影できる枚数や時間については、「1 枚のカードに撮影できる枚数」([115](#)) を参照してください。

■ バッテリーとカードを取り出す



バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- バッテリーが出てきます。



カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を放します。
- カードが出てきます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



日付／時刻を設定する

電源を入れたときに「日付／時刻」画面が表示されたときは、現在の日時に正しく設定してください。ここで設定した情報は撮影する画像に記録され、撮影日による管理や、日付を入れて印刷するときなどに使用できます。なお、撮影した日時を画像に写し込むこともできます（P.35）。



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- 「日付／時刻」画面が表示されます。



2 日付／時刻を設定する

- 「◀」か「▶」を押して項目を選びます。
- 「▲」か「▼」を押して設定します。
- すべての項目を設定したら、「⊕」を押します。



3 自宅のエリアを設定する

- 「◀」か「▶」を押して自宅のあるエリアを選びます。

4 設定を終える

- 「⊕」を押すと設定されて、確認画面が表示されたあと、設定画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。



- 日付／時刻や自宅エリアを設定しないと、電源を入れるたびに「日付／時刻」画面が表示されます。正しく設定してください。



- 手順2で「時」を選び、「▲」か「▼」を押して「分」にする、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。



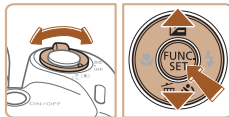
1 メニューを表示する

- 「MENU」ボタンを押します。



2 「日付／時刻」を選ぶ

- ズームレバーを動かして、「↑」タブを選びます。
- 「▲」か「▼」を押して「日付／時刻」を選び、「⊕」を押します。



3 日付／時刻を変える

- 「日付／時刻を設定する」の手順2（P.17）の操作で設定します。
- 「MENU」ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

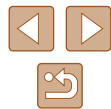
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約 3 週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、AC アダプターキット（別売）(P.85) を使うと、カメラの電源を入れなくても約 4 時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに [日付／時刻] 画面が表示されます。「日付／時刻を設定する」(P.17) の操作で正しく設定してください。

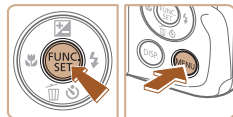
表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。



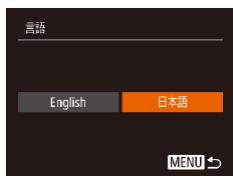
1 再生モードにする

- [▶] ボタンを押します。



2 設定画面を表示する

- [⊙] を押したまま、すぐに [MENU] ボタンを押します。



3 言語を設定する

- [◀] か [▶] を押して言語を選び、[⊙] を押します。
- 表示言語が設定され、設定画面が消えます。



- 手順 2 の操作で [⊙] を押してから、[MENU] ボタンを押すまでの間隔が長いと、時計表示になります。時計表示になったときは [⊙] を押して時計表示を消して、もう一度手順 2 の操作を行います。
- 言語設定は、[MENU] ボタンを押すと表示されるメニュー画面で、[言語] タブの [言語] を選んで設定することもできます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



使ってみる

▶ 静止画 ▶ 動画

ここでは、電源を入れてから静止画や動画を撮影し、その画像を見るまでの手順について説明しています。

撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。



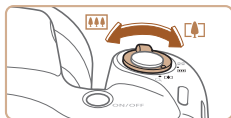
1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- 起動画面が表示されます。



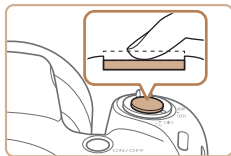
2 [AUTO] モードにする

- [AUTO] が表示されるまで [AUTO] を何度か押します。
- カメラを被写体に向けて、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます。
- 被写体が検出されたときは、枠が表示されてピントを合わせます。



3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを [[M]] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[[L]] 側に押すと小さくなります。

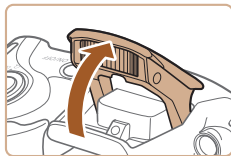


4 撮影する

静止画を撮る

1) ピントを合わせる

- シャッターボタンを浅く押して、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。
- [ストロボを上げてください] のメッセージが表示されたときは、ストロボを指で持ち上げると、撮影時にストロボが光ります。ストロボを指で押し下げた収納すると、ストロボは光りません。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

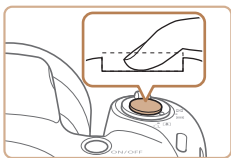
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





2) 撮影する

- シャッターボタンを深く押し込みます。
- シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでストロボを上げているときは、自動的にストロボが光ります）。
- シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかりと持ってください。
- 撮影した画像が表示されたあと、撮影画面に戻ります。



動画を撮る

1) 撮影をはじめると

- 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、[●録画]と撮影時間(1)が表示されます。
- 画面上下に黒い帯が表示され、被写体が少し大きく表示されます。なお、黒い帯の部分は撮影できません。
- 人の顔が検出されているときは、枠が表示されてピントを合わせます。
- 撮影が始まったら動画ボタンから指を放します。



2) 撮影を終える

- もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。



1 再生モードにする

- [▶] ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- [◀] を押すと前の画像が表示され、[▶] を押すと次の画像が表示されます。



- [◀] か [▶] を1秒以上押すとこの画面が表示されます（スクロール再生）。この状態で [◀] か [▶] を押して画像を選びます。
- [⊙] を押すと1枚表示に戻ります。
- 動画では、[SET▶] が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

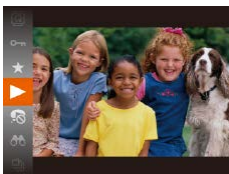
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





3 動画を再生する

- [⏮] を押したあと、[▲] か [▼] を押して [▶] を選び、もう一度 [⏮] を押します。
- 動画が再生され、再生が終わると [SET ▶] が表示されます。
- 音量は [▲] か [▼] を押して調節します。



- 再生モードの状態ではシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

■ 消す

不要な画像を 1 枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 消したい画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選びます。

2 消す

- [▼] を押します。
- [消去?] が表示されたら、[◀] か [▶] を押して [消去] を選び、[⏻] を押します。
- 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、[◀]か[▶]を押して[キャンセル] を選び、[⏻] を押します。



- 画像をまとめて消すこともできます (P.69)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



カメラを知る

カメラの基本操作をはじめ各種の撮影や再生の他、カメラを活用するための情報などを内容ごとに章分けして説明しています。

電源の入れかた／切りかた



撮影モード

- 電源ボタンを押すと電源が入り、撮影できます。
- 電源ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。



再生モード

- [▶] ボタンを押すと電源が入り、撮影した画像を見ることができます。
- [▶] ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。



- 撮影モードの状態では [▶] ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生モードの状態ではシャッターボタンを半押し (p.23) すると、撮影モードになります。
- 再生モードでは、約 1 分経過するとレンズが収納されます。レンズが収納されているときは、[▶] ボタンを押すと電源が切れます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消費を防ぐため、カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり（ディスプレイオフ）、電源を切ったりする機能です。

■ 撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（[図23](#)）すると画面が表示され、撮影できます。

■ 再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

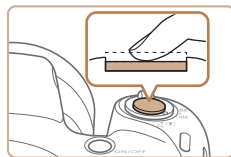


- 節電機能を切ったり、画面が消えるまでの時間を変えたりすることができます（[図79](#)）。
- パソコンとつないでいるとき（[図90](#)）は、節電機能は働きません。

シャッターボタンの押しかた

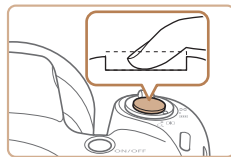
ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、そのまま深く押す「全押し」をして撮影します。

なお、シャッターボタンの操作に関する記載は以降「半押し」、「全押し」と表記しています。



1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置に枠が表示されるまで、浅く押します。



2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

- シャッター音が鳴り、撮影されます。
- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。



- シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。
- シャッター音は撮影にかかる時間に応じて長さが変わります。そのため、撮影シーンによってはシャッター音が長くなり、シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



撮影時の画面表示の切り換えかた

画面表示は、[DISP] ボタンを押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、「画面の表示内容一覧」(P105)を参照してください。

	情報表示あり
	情報表示なし



- 暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図を確認しやすくなります (ナイトビュー機能)。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややごこちない表示になることがあります (記録される画像に影響はありません)。
- 再生時の画面表示については、「表示を切り換える」(P62)を参照してください。

FUNC. (ファンクション) の表示と操作方法

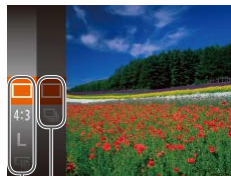
よく使う機能は、FUNC. で設定できます。

なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード (P108) や再生モード (P113) によって変わります。



1 FUNC. のメニュー項目を表示する

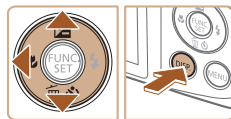
- [FUNC.] を押します。



(1) (2)

2 メニュー項目を選ぶ

- [▲] か [▼] を押してメニュー項目 (1) を選び、[FUNC.] か [▶] を押します。
- メニュー項目の右側に項目 (2) が表示されます。
- メニュー項目によっては、[FUNC.] や [▶] を押すだけで設定される機能や画面が切り換わる機能もあります。



3 項目を選ぶ

- [▲] か [▼] を押して項目を選びます。
- [DISP.] が表示される項目では、[DISP.] ボタンを押して設定することができます。
- メニュー項目に戻るときは、[◀] を押します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





4 設定を終える

- [MENU] を押します。
- 手順 1 で [MENU] を押す前の画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。



- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます (P83)。

MENU (メニュー) の表示と操作方法

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影 [📷] や再生 [▶] などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード (P110 ~ P113) によって変わります。



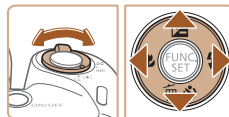
1 メニューを表示する

- [MENU] ボタンを押します。



2 タブを選ぶ

- ズームレバーを動かして、タブを選びます。
- [▲] か [▼] を押してタブが選ばれている状態にしたあと、[◀] か [▶] を押してタブを選ぶこともできます。



3 項目を選ぶ

- [▲] か [▼] を押して項目を選びます。
- 内容が表示されていない項目では、[MENU] か [▶] を押して画面を切り換えたあと、さらに [▲] か [▼] を押して項目を選びます。
- [MENU] ボタンを押すと切り換える前の画面に戻ります。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

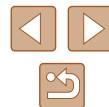
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



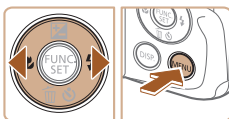


4 内容を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して内容を選びます。

5 設定を終える

- [MENU] ボタンを押すと、手順 1 で [MENU] ボタンを押す前の画面に戻ります。



- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます (83)。

ランプの表示

カメラ背面のランプ (3) は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時 (90)、画面消灯時 (ディスプレイオフ) (23、79、79)
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時の撮影中 (47)



- ランプ (背面) が緑色に点滅しているときは、「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことは絶対にしないでください。画像が壊れて表示できなくなったり、カメラやカードが故障する原因になります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

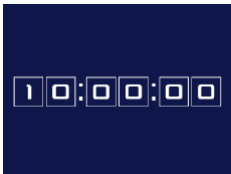
8 付録

索引



時計機能

現在の時刻を確認できます。



- [FUNC.] を押したままにします。
- 現在の時刻が表示されます。
- 時刻表示中にカメラを縦にすると縦表示になり、[◀] か [▶] を押すと表示色を変えることができます。
- もう一度 [FUNC.] を押すと時刻表示が消えます。



- [FUNC.] を押したまま電源を入れることで、時刻表示にすることもできます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

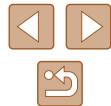
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



2

オートモード

かんたん操作で手軽に撮ったり、いろいろな機能を使ってもう少しこだわった画像を撮る

カメラまかせで撮る

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

オートモードで撮る（こだわりオート）

▶ 静止画 ▶ 動画



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- 起動画面が表示されます。



2 [AUTO] モードにする

- [AUTO] が表示されるまで [AUTO] を何度か押します。
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- 画面の右上にカメラが判別したシーンと手ブレ補正のアイコンが表示されます（[31](#)、[32](#)）。
- 被写体が検出されたときは、枠が表示されてピントを合わせます。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

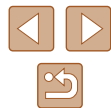
5 再生モード

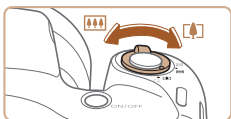
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





(1)



3 撮りたいものの大きさを決める

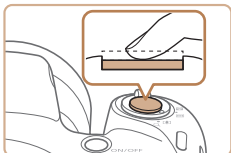
- ズームレバーを [MAG] 側に押しと撮りたいものが大きくなり、[ZOOM] 側に押しと小さくなります(ズームの位置を示すズームバー(1)が表示されます)。
- ズームレバーを [MAG] 側、または [ZOOM] 側へいっぱいまで押したときは速く、少し押したときはゆっくりと、大きさが変わります。

4 撮影する

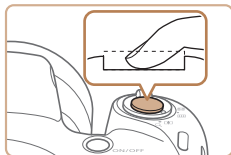
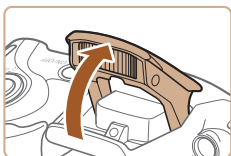
静止画を撮る

1) ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。
- 複数の AF フレームが表示されたときは、表示されたすべての AF フレームにピントが合っています。



- [ストロボを上げてください] のメッセージが表示されたときは、ストロボを指で持ち上げると、撮影時にストロボが光ります。ストロボを指で押し下げて収納すると、ストロボは光りません。



2) 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- シャッター音が鳴り、撮影されます(暗いところでストロボを上げているときは、自動的にストロボが光ります)。
- シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかり持ってください。
- 撮影した画像が表示されたあと、撮影画面に戻ります。

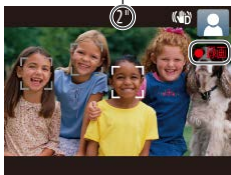


動画撮る

1) 撮影をはじめめる

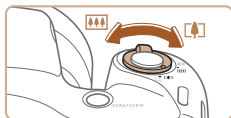
- 動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、[●録画]と撮影時間(1)が表示されます。
- 画面上下に黒い帯が表示され、被写体が少し大きく表示されます。なお、黒い帯の部分は撮影できません。
- 人の顔が検出されているときは、枠が表示されてピントを合わせます。
- 撮影が始まったら動画ボタンから指を放します。

(1)



2) 撮りたいものの大きさを変えたり、構図を変える

- 撮りたいものの大きさを変えるときは手順3と同じ操作で変えます。ただし、操作音は録音されます。また、倍率が青く表示されたときは画像が粗くなります。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





3) 撮影を終える

- もう一度動画ボタンを押すと、電子音が「ピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

■ 静止画／動画



- [DISP.] ボタンを押したまま電源を入ると音が鳴らなくなります。音が鳴るようにするには、[MENU] ボタンを押して、[冫] タブの[消音]を選び、[◀]か[▶]を押して[しない]を選びます。

■ 静止画



- [Q] が点滅表示したときは手ブレしやすいため、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。
- ストロボが光ったのに暗い画像になるときは、被写体までの距離が遠すぎます。ストロボ撮影できる範囲については、「ストロボ調光範囲」(P116)を参照してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴るときは、撮りたいものが近すぎる可能性があります。ピントが合う範囲(撮影範囲)は、「撮影距離」(P116)を参照してください。
- 暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためや人の目が赤く写るのを緩和するため、ランプ(前面)が点灯することがあります。
- 撮影しようとしたときに[Q] が点滅表示したときは、ストロボ充電中のため撮影できません。充電が終わると撮影できますので、シャッターボタンを全押ししたまま待つか、一度シャッターボタンを放してもう一度押してください。
- 撮影画面に戻る前でも次の撮影はできますが、ピント、明るさ、色あいは、直前の撮影に固定されることがあります。

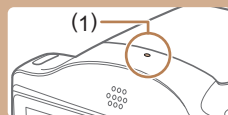


- 撮影直後に画像が表示される時間を変えることができます(P40)。

■ 動画



- 動画撮影する前にストロボを指で下げて収納し、撮影中はマイク(1)をふさがないでください。ストロボを上げた状態やマイクをふさいだ状態では、音声が録音されなかったり、こもった音声で録音されることがあります。



- 動画撮影中に動画ボタン以外を操作すると、操作音が録音されるので、注意してください。
- 大きな手ブレを補正するため、撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。撮影前と同じ大きさで撮影したいときは、手ブレ補正の設定を変えてください(P60)。



- 音声はモノラルで録音されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



シーンのアイコン

▶ 静止画 ▶ 動画

[AUTO] モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。

背景	被写体：人			背景色
	人	動いているとき ^{*1}	顔の一部が暗いとき ^{*1}	
明るい				灰色
明るい（逆光）			—	
青空を含む				水色
青空を含む（逆光）			—	
スポットライト				紺色
暗い				
暗い（三脚を使用しているとき）	^{*2}	—	—	

背景	被写体：人以外			背景色
	人以外	動いているとき ^{*1}	近いとき	
明るい				灰色
明るい（逆光）				
青空を含む				水色
青空を含む（逆光）				
夕景			—	オレンジ色

背景	被写体：人以外			背景色
	人以外	動いているとき ^{*1}	近いとき	
スポットライト				紺色
暗い				
暗い（三脚を使用しているとき）	^{*2}	—	—	

*1 動画撮影では表示されません。

*2 撮影シーンが暗いときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。



- 撮影シーンによっては、実際のシーンと異なるシーンのアイコンが表示されたり、思いどおりの効果、色あい、明るさで撮影できないことがあります。そのときは、[P] モード (P49) で撮影することをおすすめします。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録









索引



手ブレ補正アイコン


▶ 静止画 ▶ 動画

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーン IS）されます。また、[AUTO] モードでは以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正（通常）
	静止画を流し撮りで撮るときの手ブレを補正（流し撮り）*
	マクロ撮影するときの手ブレを補正。また、動画撮影中は【  】が表示され、動画のマクロ撮影に適した手ブレ補正を実施（ハイブリッド IS）
	動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミック）
	動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワー）
	三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正を停止。ただし、動画撮影中は【  】が表示され、風などによる振動の影響を低減するブレ補正を実施（三脚 IS）

* 動く被写体をカメラで追いつながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。



- [手ブレ補正] を [切] に設定（ 60）すると、手ブレが補正されなくなり、アイコンも表示されなくなります。


画面に表示される枠

▶ 静止画 ▶ 動画

カメラを被写体に向けて被写体を検出すると、画面上にいろいろな枠が表示されます。

- カメラを被写体に向けると主被写体として検出された顔やものには白の枠、その他の顔には灰色の枠が表示されて、一定の範囲で追尾しピントを合わせ続けます。ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色の枠が消えて、白の枠だけになります。
- シャッターボタンを半押しした状態で被写体が動いていると判別したときは、青色の枠が表示されて、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボ AF）。



- 撮影シーンや被写体によっては、「枠が表示されない」、「撮りたい被写体に枠が表示されない」、「背景などに枠が表示される」ことがあります。そのときは、[P] モード（ 49）で撮影することをおすすめします。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

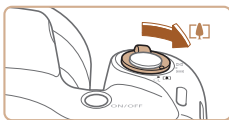


よく使う機能や便利な機能を使う

▶ 静止画 ▶ 動画

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約 120 倍まで拡大できます。

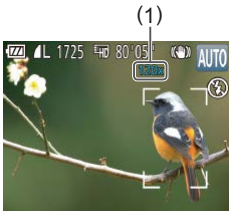


1 ズームレバーを [Z] 側に押す

- ズームできる範囲までレバーを押しただままにします。
- 画像の粗さが目立たない最大の倍率になるとズームが止まり、ズーム倍率が表示されます。

2 もう一度 [Z] 側に押す

- (1) は現在の倍率です。
- さらにズームして、被写体が拡大されます。



- ズームレバーを操作するとズーム位置を示すズームバーが表示されて、バーの色はズーム領域によって変わります。
 - 白の領域：画像が粗くならない光学ズーム領域
 - 黄色の領域：画像の粗さが目立たないデジタルズーム領域（プログレッシブファインズーム）
 - 青色の領域：画像が粗くなるデジタルズーム領域
- 設定した記録画素数 ([Q] 37) によっては青色の領域がないため、手順 1 の操作で最大倍率までズームできます。



- デジタルズームを使わないようにするには、MENU ([M] 25) で [CAM] タブの [デジタルズーム] を選び、[切] を選びます。

セルフタイマーを使う

▶ 静止画 ▶ 動画

集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約 10 秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。



1 設定する

- [▼] を押したあと、[▲] か [▼] を押して [Fn] を選び、[Fn] を押します。
- 設定されると [Fn] が表示されます。

2 撮影する

- 静止画を撮影するときは、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 動画を撮影するときは、動画ボタンを押します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

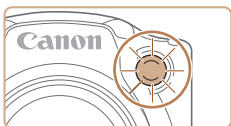
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- 撮影の2秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、[MENU] ボタンを押します。
- 戻すときは、手順 1 の操作で [] を選びます。

■ セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

▶ 静止画 ▶ 動画

シャッターボタンを押してから約 2 秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラの手ブレを防ぐことができます。



- 「セルフタイマーを使う」の手順 1 (33) の操作で [] を選びます。
- 設定されると [] が表示されます。
- 「セルフタイマーを使う」の手順 2 (33) の操作で撮影します。

■ セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影されるまでのタイマー時間（0 - 30 秒）と、撮影枚数（1 - 10 枚）を設定できます。

1 [] を選ぶ

- 「セルフタイマーを使う」の手順 1 (33) の操作で [] を選び、すぐに [MENU] ボタンを押します。



2 設定する

- [▲] か [▼] を押して [時間] または [枚数] を選びます。
- [◀] か [▶] を押して数値を選び、[] を押します。
- 設定されると [] が表示されます。
- 「セルフタイマーを使う」の手順 2 (33) の操作で撮影します。



- 動画ボタンを押して撮影したときは、設定した [時間] で撮影がはじまりますが、[枚数] は反映されません。



- 撮影枚数を 2 枚以上にしたときは、明るさや色あいは 1 枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を 2 秒以上にしたときは、撮影の 2 秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

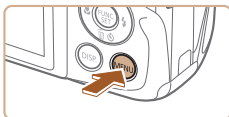
索引



日付を写し込む

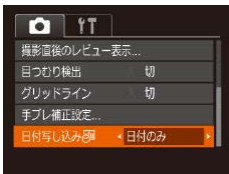
▶ 静止画 ▶ 動画

画像の右下に撮影したときの日付を写し込むことができます。
なお、写し込まれた日付を消したり、修正することはできませんので、あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください(図17)。



1 設定する

- [MENU] ボタンを押して、[📷] タブの [日付写し込み] を選び、目的の項目を選びます(図25)。
- 設定されると [📅] が表示されます。



2 撮影する

- 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が写し込まれます。
- 戻すときは、手順1の操作で [切] を選びます。



- 写し込まれた日付を消したり、修正することはできません。



- 日付を写し込まなかった画像でも、次の方法で画像に撮影日を入れて印刷することができます。
ただし、日付を写し込んだ画像を同じ方法で印刷すると、日付が二重に印刷されることがあります。
 - プリンターの機能を使って印刷する(図92)
 - 印刷指定(DPOF)機能を使って印刷する(図95)
 - 弊社Webサイトからダウンロードしたソフトウェア(図89)を使って印刷する

連続して撮る

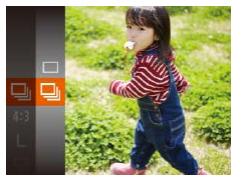
▶ 静止画 ▶ 動画

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。
連続撮影の速度は「連続撮影の速さ」(図116)を参照してください。



1 設定する

- [📷] を押して、メニュー項目の [📷] を選んだあと、項目の [📷] を選びます(図24)。
- 設定されると [📷] が表示されます。



2 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- 連続撮影中はシャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出で固定されます。
- セルフタイマー ([] 33) とは一緒に使えません。
- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

自分好みの画像を撮るための機能を使う

縦横比 (アスペクト比) を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の縦横の比率を変えられます。



- [] を押して、メニュー項目の [4:3] を選んだあと、目的の項目を選びます (24)。
- 設定されると画面の縦横比が変わります。
- 戻すときは、上記の操作で [4:3] を選びます。

16:9	HD (ハイビジョン) 対応テレビと同じ縦横比です。
3:2	35mm フィルムと同じ縦横比です。2L 判、はがきなどでの印刷に適しています。
4:3	このカメラの画面と同じ縦横比です。HD (ハイビジョン) 非対応テレビなどの画面へ表示するときや、L 判、A 判などでの印刷に適しています。
1:1	正方形です。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



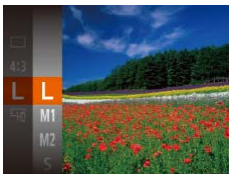
記録画素数（画像の大きさ）を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の記録画素数を4種類から選べます。それぞれの記録画素数で1枚のカードに撮影できる枚数については「1枚のカードに撮影できる枚数」(P115)を参照してください。



- [MENU] を押して、メニュー項目の [L] を選び、目的の項目を選びます (P24)。
- 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で [L] を選びます。



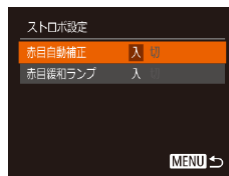
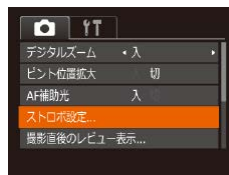
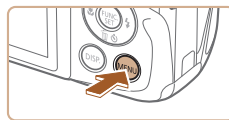
用紙の大きさで選ぶときの目安（縦横比 4:3 のとき）

L	A2 相当
M1	A3 ~ A5 相当
M2	2L 判、はがき、L 判相当
S	電子メールで画像を送るときなど

赤目自動補正

▶ 静止画 ▶ 動画

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。



1 [ストロボ設定] 画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[CAMERA] タブの [ストロボ設定] を選び、[MENU] を押します (P25)。

2 設定する

- [赤目自動補正] を選んだあと、[入] を選びます (P25)。
- 設定されると [ON] が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で [切] を選びます。



- 化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。



- 撮影した画像を補正することもできます (P75)。
- ストロボを上げているときは、[▶] を押してからすぐに [MENU] ボタンを押すと、手順2の画面を表示できます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



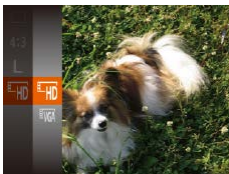
動画の画質を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

2種類の画質から選べます。それぞれの画質で1枚のカードに撮影できる時間については「1枚のカードに撮影できる時間」(116)を参照してください。



- [FUNC SET] を押して、メニュー項目の [HD] を選んだあと、目的の項目を選びます (24)。
- 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で [HD] を選びます。



画質	記録画素数	フレーム数	内容
HD	1280 x 720 画素	25 フレーム / 秒	HD (ハイビジョン) 画質で撮影できます。
SD	640 x 480 画素	30 フレーム / 秒	SD (スタンダード) 画質で撮影できます。



- [HD] では、画面の上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

撮影の手助けとなる機能を使う

グリッドラインを表示する

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。



- [MENU] ボタンを押して、[CAMERA] タブの [グリッドライン] を選び、[入] を選びます (25)。
- 設定されると格子線が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で [切] を選びます。



- 「グリッドライン」は画像に記録されません。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

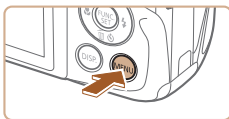
索引



ピント位置を拡大表示する

▶ 静止画 ▶ 動画

シャッターボタンを半押ししたときに、AF フレーム（ピント合わせの枠）の位置を拡大表示してピントを確認することができます。



1 設定する

- [MENU] ボタンを押して、[カメラ] タブの [ピント位置拡大] を選び、[入] を選びます (P.25)。



2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しすると、主被写体として検出された顔が、拡大表示されます。
- 戻すときは、手順 1 の操作で [切] を選びます。



- 次のときはシャッターボタンを半押ししても拡大表示されません。
 - 顔が検出できないとき、顔がカメラに近すぎて画面に対して大きく表示されているとき、顔が動いていると判別されたとき
 - デジタルズーム (P.33) をしているとき
 - キャッチ AF (P.56) をしているとき
 - テレビに表示しているとき (P.87)

目をつむった人を確認する

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、[目] を表示してお知らせします。



1 設定する

- [MENU] ボタンを押して、[カメラ] タブの [目つむり検出] を選び、[入] を選びます (P.25)。



2 撮影する

- 目をつむった人を検出したときは、[目] が点滅表示されます。
- 戻すときは、手順 1 の操作で [切] を選びます。



- [目] で撮影枚数を 2 枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- [表示時間] を [2 秒]、[4 秒]、[8 秒]、または [ホールド] にしているとき (P.40) は、目をつむった人の顔に枠が表示されます。
- 連続撮影 (P.35) を設定すると [切] 固定になります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



自分好みに機能を変える

MENUの [📷] タブで、カメラの撮影機能を好みの設定に変えることができます。

なお、メニュー機能の操作方法は、「MENU（メニュー）の表示と操作方法」（📖25）を参照してください。

AF 補助光（ランプ）を切る

▶ 静止画 ▶ 動画

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。



- [MENU] ボタンを押して、[📷] タブの [AF 補助光] を選び、[切] を選びます（📖25）。
- 戻すときは、上記の操作で [入] を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

▶ 静止画 ▶ 動画

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。



1 [ストロボ設定] 画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[📷] タブの [ストロボ設定] を選び、[📷] を押しします（📖25）。

2 設定する

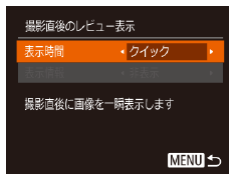
- [赤目緩和ランプ] を選んでから、[切] を選びます（📖25）。
- 戻すときは、上記の操作で [入] を選びます。

撮影直後の画面表示を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影直後に画像が表示される時間を変えたり、画面の表示を変えることができます。

撮影直後の画像表示時間を変える



1 [撮影直後のレビュー表示] 画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[📷] タブの [撮影直後のレビュー表示] を選び、[📷] を押しします（📖25）。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

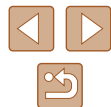
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



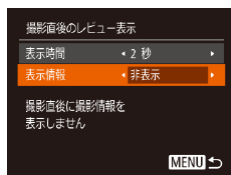
2 設定する

- [▲] か [▼] を押して [表示時間] を選び、[◀] か [▶] を押して、目的の項目を選びます。
- 戻すときは、上記の操作で [クイック] を選びます。

クイック	次の撮影ができるようになるまでの間だけ画像を表示します。
2秒、4秒、8秒	設定した時間だけ画像を表示します。画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影ができます。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

■ 撮影直後に表示される画面を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。



- 1 [表示時間] を [2秒]、[4秒]、[8秒] または [ホールド] にする (📖40)

2 設定する

- [▲] か [▼] を押して [表示情報] を選び、[◀] か [▶] を押して、目的の項目を選びます。
- 戻すときは、上記の操作で [非表示] を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示 (📖106) になります。



- [表示時間] (📖40) で [クイック] または [切] を選んでいるときは、[非表示] に固定されます。
- 撮影直後に画像が表示されているときに [DISP.] ボタンを押すと、表示情報を切り換えられます。ただし、[表示情報] で設定した内容は変わりません。また、[▼] を押して画像を消去したり、[⊕] を押して保護 (📖67) やお気に入り設定 (📖72) することができます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

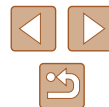
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



3

いろいろな撮影モード

いろいろなシーンをより効果的に撮ったり、ユニークな効果や特殊な機能で演出された画像を撮る

かんたんに明るさ、あざやかさ、色あいを変えて撮る（ライブビューコントロール）

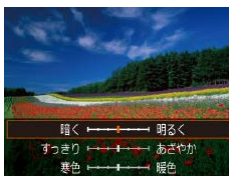
▶ 静止画 ▶ 動画

明るさ、あざやかさ、色あいをかんたんな操作で自分好みに設定して撮影できます。



1 [LIVE] モードにする

- [LIVE] が表示されるまで、[AUTO] を何度か押します。



2 設定する

- [DISP.] を押して設定画面を表示したあと、[▲] か [▼] を押して項目を選び、画面を見ながら [◀] か [▶] を押して値を設定します。
- [⊞] を押します。

3 撮影する

明るさ	右側にいくほど明るくなり、左側にいくほど暗くなります。
あざやかさ	右側にいくほどあざやかな画像に、左側にいくほどすっきりとした画像になります。
色あい	右側にいくほど赤みの強い暖色系の画像になり、左側にいくほど青みの強い寒色系の画像になります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

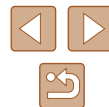
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

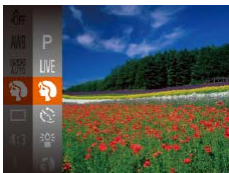
8 付録

索引



いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。



1 撮影モードを選ぶ

- [LIVE] が表示されるまで、[AUTO] を何度か押します。
- [MENU] を押して、メニュー項目の [LIVE] を選んだあと、目的の項目を選びます (P.24)。

2 撮影する

👤 人を撮る (ポートレート)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 人ややわらかい感じで撮影できます。



🌙 暗い場所で撮る (ローライト)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえ撮影できます。



❄️ 雪景色で撮る (スノー)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。



🎆 花火を撮る (打上げ花火)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。



- [🎆] モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします (P.60)。



- [🌙] モードでは、記録画素数は [M] (2304 x 1728 画素) に固定されます。
- [❄️] モードでは、最適なピント位置に設定されますが、シャッターボタンを半押ししても枠は表示されません。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1 (P43) の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

🌈 鮮烈な色で撮る (極彩色)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。



🎨 イラスト風の効果をつけて撮る (オールドポスター)

▶ 静止画 ▶ 動画

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。



- [🌈] [🎨] モードでは、撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

魚眼レンズのような効果をつけて撮る (魚眼風)

▶ 静止画 ▶ 動画

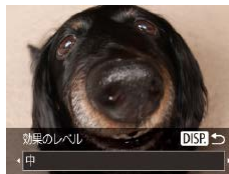
魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 [👁] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1 (P43) の操作で [👁] を選びます。

2 効果を選ぶ

- [DISP] ボタンを押したあと、[◀] か [▶] を押して効果のレベルを選び、もう一度 [DISP] ボタンを押します。
- 設定した効果で画面が表示されます。



3 撮影する



- 撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

▶ 静止画 ▶ 動画

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。

また、「再生時の速さ」を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 [鳥] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1 (書43) の操作で [鳥] を選びます。
- 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。



2 ピントが合う位置と範囲を指定する

- [DISP] ボタンを押します。
- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えたり、[▲] か [▼] を押して枠の位置を変えます。



3 動画を撮るときは再生時の速さを選ぶ

- [MENU] ボタンを押したあと、[◀] か [▶] を押して倍速（速さ）を選びます。

4 撮影画面に戻り、撮影する

- [MENU] ボタンを押して撮影画面に戻り、撮影します。

■ 倍速と再生時間の目安（動画を 1 分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約 12 秒
10x	約 6 秒
20x	約 3 秒



- 動画の撮影中は、ズームできません。撮影前に倍率を変えてください。
- 撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。



- 手順 2 の画面で [⊞] を押すと枠の縦横が変わり、枠を縦にしたときは [◀] か [▶] を押すと枠の位置を変えられます。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- 動画の画質は、縦横比で [4:3] を選んだときは [EVA] に、[16:9] を選んだときは [EHD] に固定されます (書36)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 [📷] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1（📖43）の操作で [📷] を選びます。



2 色調を選ぶ

- [DISP.] ボタンを押したあと、[◀]か[▶]を押して色調を選び、もう一度 [DISP.] ボタンを押します。
- 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	[標準] より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	[標準] より寒色系のトイカメラ風画像になります。



- 撮影シーンによっては思い通りの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。

単色で撮る（モノクロ）

▶ 静止画 ▶ 動画

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 [📷] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1（📖43）の操作で [📷] を選びます。



2 色調を選ぶ

- [DISP.] ボタンを押したあと、[◀]か[▶]を押して色調を選び、もう一度 [DISP.] ボタンを押します。
- 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



特殊なモードでいろいろな画像を撮る

人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

▶ 静止画 ▶ 動画

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（[図56](#)）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。



1 [👤] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1（[図43](#)）の操作で [👤] を選びます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。

3 シャッターボタンを全押しする

- 撮影準備に入り「顔が増えたら撮影しませぬ」が表示されます。
- ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。



4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

- 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、[MENU] ボタンを押します。

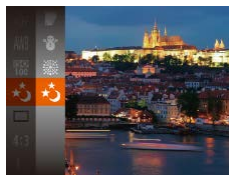


- 一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。
- 手順1で [👤] を選んだあと、[DISP.] ボタンを押してから、[◀] か [▶] を押して枚数を選び、もう一度 [DISP.] ボタンを押すと撮影枚数を変えることができます。なお、[目つくり検出]（[図39](#)）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

▶ 静止画 ▶ 動画

シャッタースピードを1～15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。



1 [🌃] を選ぶ

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順1（[図43](#)）の操作で [🌃] を選びます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

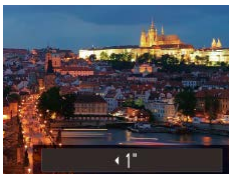
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





2 シャッタースピードを選ぶ

- [▲] を押したあと、[◀] か [▶] を押し、シャッタースピードを選び、[⊙] を押します。

3 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する



- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正]を[切]にして撮影することをおすすめします (P.60)。



- ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを[⊙]にして撮影します (P.58)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



4

Pモード

撮影スタイルにあわせた、ワンランク上の画像を撮る

- **[P]** モードになっていることを前提に説明しています。
- **[P]** は、Program AE (プログラムエーイー) の略、AEは、Auto Exposure (オートエクスポージャー) の略で自動露出のことです。
- この章で説明する機能を **[P]** モード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください (107)。

プログラム AE で撮る ([P] モード)

▶ 静止画 ▶ 動画

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。



1 [P] モードにする

- 「いろいろなシーンで撮る」の手順 1 (43) の操作で **[P]** を選びます。

2 目的に応じて各機能を設定 (50 ~ 60) し、撮影する



- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。ISO感度を変えたり (51)、被写体が暗いときにストロボを発光させる (58) と、適正露出が得られることがあります。
- **[P]** モードでも、動画ボタンを押すと動画が撮影できます。ただし、FUNC. (24) や MENU (25) の一部が動画撮影の設定にあわせて自動的に変わることがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



明るさ（露出）に関する機能を使う

明るさを変える（露出補正）

▶ 静止画 ▶ 動画

カメラが決めた標準的な露出を 1/3 段ずつ、- 2 段から + 2 段の範囲で補正できます。



- [▲] を押したあと、画面の表示を見ながら [◀] か [▶] を押して明るさを補正します。
- 動画では、露出補正バーが表示された状態で撮影します。
- 静止画では、[Ⓞ] を押して設定した補正量が表示された状態で撮影します。

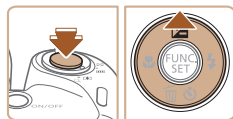


- 静止画では、露出補正バーが表示された状態でも撮影できます。
- 動画撮影中は [AEL] が表示され、露出は固定されます。

明るさ（露出）を固定する（AE ロック）

▶ 静止画 ▶ 動画

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。



1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、[▲] を押します。
- [AEL] が表示され、露出が固定されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度 [▲] を押すと、[AEL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する



- AE は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



測光方式を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

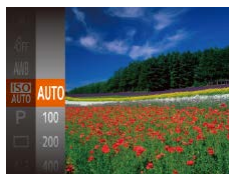


- [MENU] を押して、メニュー項目の [測光] を選び、目的の項目を選びます (P24)。
- 設定した項目が表示されます。

[測光] 評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
[] 中央部重点平均測光	画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。
[] スポット測光	画面中央に表示される [] (スポット測光枠) の範囲のみを測光します。

ISO 感度を変える

▶ 静止画 ▶ 動画



- [MENU] を押して、メニュー項目の [ISO] を選び、目的の項目を選びます (P24)。
- 設定した項目が表示されます。

AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
100、200	低い	晴天の屋外
400、800	やや低い	曇り空、夕方
1600	やや高い	夜景、暗い室内



- ISO 感度が [AUTO] のときは、シャッターボタンを半押しすると自動設定された ISO 感度が画面に表示されます。
- ISO 感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなります。
- ISO 感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

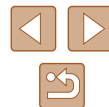
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

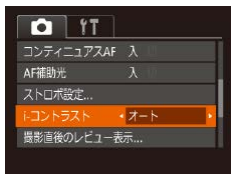
索引



明るさを補正して撮る (i-コントラスト)

▶ 静止画 ▶ 動画

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。



- [MENU] ボタンを押して、[📷] タブの [i-コントラスト] を選び、[オート] を選びます (📖25)。
- 設定されると [📷] が表示されます。



- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。



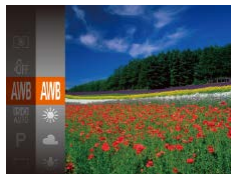
- 撮影した画像を補正することもできます (📖75)。

色に関する機能を使う

色あいを調整する (ホワイトバランス)

▶ 静止画 ▶ 動画

ホワイトバランス (WB) は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。



- [📷] を押して、メニュー項目の [WB] を選び、目的の項目を選びます (📖24)。
- 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
☀️	太陽光	晴天の屋外
☁️	曇り	曇り空や薄暮
💡	電球	電球
💡	蛍光灯	白色蛍光灯
💡	蛍光灯H	昼光色蛍光灯
📖	マニュアル	マニュアルホワイトバランス (手動設定) (📖53)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



マニュアルホワイトバランス

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。



- 「色あいを調整する（ホワイトバランス）」（[書52](#)）の操作で **[W]** を選びます。
- 画面いっぱいになり白い無地の被写体が入るようにして、**[DISP]** ボタンを押します。
- 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

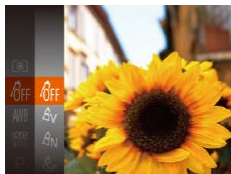


- 白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

画像の色調を変える（マイカラー）

▶ 静止画 ▶ 動画

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。



- **[M]** を押して、メニュー項目の **[W]** を選び、目的の項目を選びます（[書24](#)）。
- 設定した項目が表示されます。

[W] マイカラー切	-
[A] くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりとした印象の色調になります。
[S] すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
[Se] セピア	セピア調になります。
[W] 白黒	白黒になります。
[P] ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
[L] 色白肌	人の肌が色白になります。
[D] 褐色肌	人の肌が褐色になります。
[B] あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
[G] あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
[R] あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体などがより鮮やかになります。
[C] カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（ 書54 ）。



- **[Se]** **[W]** では、ホワイトバランス（[書52](#)）は設定できません。
- **[L]** **[D]** では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ カスタムカラー

▶ 静止画 ▶ 動画

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（鮮鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。



1 設定画面を表示する

- 「画像の色調を変える(マイカラー)」(📖53)の操作で[**Ac**]を選び、[DISP.]ボタンを押します。

2 設定する

- [▲]か[▼]を押して項目を選び、[◀]か[▶]を押して値を設定します。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- [DISP.]ボタンを押すと設定されます。

撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

▶ 静止画 ▶ 動画

[🌸]に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「撮影距離」(📖116)を参照してください。



- [◀]を押したあと、[▶]か[▶]を押して[🌸]を選び、[📷]を押します。
- 設定されると[🌸]が表示されます。



- ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- レンズを傷つけないように注意してください。
- ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、[🌸]が灰色表示になりピントが合いません。



- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、[📷]で撮影することをおすすめします(📖34)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

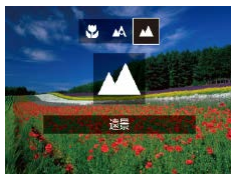
索引



遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

▶ 静止画 ▶ 動画

[▲] に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「撮影距離」(116) を参照してください。



- [◀] を押したあと、[▶] か [▶] を押して [▲] を選び、[OK] を押します。
- 設定されると [▲] が表示されます。

デジタルテレコンバーターを使う

▶ 静止画 ▶ 動画

レンズの焦点距離を 1.6 倍 / 2.0 倍にできます。ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。



- [MENU] ボタンを押して、[CAMERA] タブの [デジタルズーム] を選んだあと、目的の項目を選びます (25)。
- 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。



- デジタルズーム (33)、ピント位置の拡大表示 (39) とは、一緒に使えません。



- ズームレバーを [CAMERA] 側に押しきると望遠にしたときのシャッタースピードは、「被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）」の手順 2 (33) の操作で被写体を同じような大きさに拡大したときのシャッタースピードと同じになることがあります。

AF フレームモードを変える

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。



- [MENU] ボタンを押して、[CAMERA] タブの [AF フレーム] を選び、目的の項目を選びます (25)。

■ 中央

▶ 静止画 ▶ 動画

AF フレームが中央 1 点になります。確実なピント合わせに有効です。



- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色の AF フレームと [!] が表示されます。



- AF フレームを小さくしたいときは、[MENU] ボタンを押して、[CAMERA] タブの [AF フレームサイズ] で [小] を選びます (25)。
- デジタルズーム (33) やデジタルテレコンバーター (55) 使用時は、[標準] に設定されます。
- 被写体が画像の端や隅にくるよう撮影するときは、被写体に AF フレームをあわせてシャッターボタンを半押しし、この状態で構図を変えてシャッターボタンを全押しして撮影します（フォーカスロック撮影）。
- 「ピント位置拡大」(39) を [入] にしているときは、シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、AF フレームの位置が拡大して表示されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ 顔優先 AiAF

▶ 静止画 ▶ 動画

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（[AWB]時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けてと、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。



- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。
- サーボ AF ([M]57) が [入] で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
 - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
 - 被写体が暗い、または明るい。
 - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは表示されません。

■ ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（キャッチ AF）

▶ 静止画 ▶ 動画

ピントを合わせたい被写体を選んで、撮影できます。

1 [キャッチ AF] を選ぶ

- 「AF フレームモードを変える」([M]55) の操作で [キャッチ AF] を選びます。
- 画面中央に [☑] が表示されます。

2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 被写体に [☑] が重なるようにカメラを動かして [◀] を押します。



- 被写体を検出されると電子音が鳴り、[☑] が表示されます（動いていても一定の範囲で追いつけます）。
- 被写体を検出できなくなったときは、[☑] が表示されます。
- 解除するときは、もう一度 [◀] を押します。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、[☑] が青色の [□] に変わり、被写体を追い続けながら、ピントと露出を合わせ続けます（サーボ AF）([M]57)。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。
- 撮影後も [☑] が表示され、被写体を追い続けます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

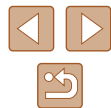
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- [サーボ AF] (P257) は [入] に固定されます。
- 被写体が小さすぎる、動きが速い、被写体と背景との明暗差や色の差が小さいときは、追尾できないことがあります。
- MENU (P25) の [カメラ] タブの [ピント位置拡大] は設定できません。
- [AF] [AF] は設定できません。



- [AF] を押さずにシャッターボタンを半押ししても被写体を検出できます。撮影後は、画面中央に [AF] が表示されます。

■ サーボ AF で撮る

▶ 静止画 ▶ 動画

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを見逃さずに撮影できます。



1 設定する

- [MENU] ボタンを押して、[カメラ] タブの [サーボ AF] を選び、[入] を選びます (P25)。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色で AF フレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

フォーカス設定を切り換える

▶ 静止画 ▶ 動画

通常は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせるようにすることができます。



- [MENU] ボタンを押して、[カメラ] タブの [コンティニュアス AF] を選び、[切] を選びます (P25)。

入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを見逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力をおさえることができます。



- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししても AF フレームが青色にならないことがあります。そのときは、設定している AF フレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を放して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AF ロック撮影はできません。
- MENU (P25) の [カメラ] タブの [ピント位置拡大] は設定できません。
- セルフタイマー (P33) 使用時は設定できません。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

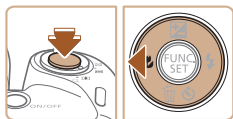
索引



AFロックで撮る

▶ 静止画 ▶ 動画

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。



1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、[◀] を押します。
- ピントが固定され、[AFL] が表示されます。
- シャッターボタンから指を放してももう一度 [◀] を押すと、[AFL] が消え解除されます。

2 構図を決めて撮影する

ストロボに関する機能を使う

ストロボモードを変える

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影シーンにあわせて、ストロボモードを変えられます。ストロボ撮影できる範囲は、「ストロボ調光範囲」(P116) を参照してください。

1 ストロボを持ち上げる

2 設定する

- [▶] を押したあと、[◀] か [▶] を押してストロボモードを選び、[⊙] を押します。
- 設定した項目が表示されます。



- ストロボがカメラに収納されていると、[▶] を押しても設定画面は表示されません。ストロボを指で持ち上げてから操作してください。

■ オート

暗いところでは自動的にストロボが光ります。

■ 常時発光

ストロボを常に発光させて撮影できます。

■ スローシンクロ

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- [Fn] では、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします (p.60)。
- [Fn] では、ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

発光禁止

ストロボを光らせないで撮影することができます。



- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に [Fn] が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

FE ロックで撮る

▶ 静止画 ▶ 動画

ストロボ撮影時の露出を、AE ロック撮影 (p.50) と同様に固定できます。

1 ストロボを持ち上げ、[Fn] にする (p.58)

2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、[Fn] を押します。
- ストロボが発光し、[FE] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を放してもう一度 [Fn] を押すと、[FE] が消え解除されます。

3 構図を決めて撮影する



- FE は、Flash Exposure (フラッシュエクスポージャー) の略でストロボ露出のことです。

撮影スタイルにあわせて機能を変える

圧縮率 (画質) を変える

▶ 静止画 ▶ 動画

圧縮率を 2 種類から選べます。高画質から順に [S] (スーパーファイン)、[F] (ファイン) となります。それぞれの圧縮率で 1 枚のカードに撮影できる枚数については「1 枚のカードに撮影できる枚数」(p.115) を参照してください。



- [Fn] を押して、メニュー項目の [Fn] を選び、目的の項目を選びます (p.24)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

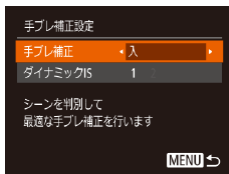
8 付録

索引



手ブレ補正の設定を変える

▶ 静止画 ▶ 動画



1 設定画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[] タブの [手ブレ補正設定] を選び、[] を押します (P.25)。

2 設定する

- [手ブレ補正] を選んでから、目的の項目を選びます (P.25)。

入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定 (マルチシーンIS) されます (P.32)。
撮影時*	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

* 動画を撮影するときは、[入] の設定に変わります。

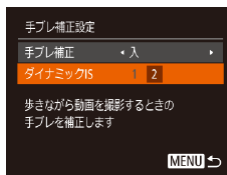


- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[切] にすることをおすすめします。

撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影する

▶ 静止画 ▶ 動画

動画撮影では大きな手ブレも補正するため、撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。この大きな手ブレの補正を行わないことで、撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影することができます。



- 「手ブレ補正の設定を変える」(P.60) の操作で [手ブレ補正設定] 画面を表示します。
- [ダイナミック IS] を選んでから、[2] を選びます (P.25)。



- [手ブレ補正] が [切] のときも、撮影前の画面と同じ大きさで動画を撮影することができます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



5

再生モード

撮った画像を見て楽しんだり、いろいろな機能を使って画像の検索や編集をする

- [▶] ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。



- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。

見る

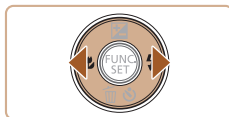
▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した画像を画面で見ることができます。



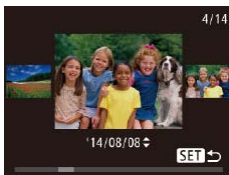
1 再生モードにする

- [▶] ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- [◀] を押すと前の画像が表示され、[▶] を押すと次の画像が表示されます。



- [◀] か [▶] を 1 秒以上押すとこの画面が表示されます (スクロール再生)。この状態で [◀] か [▶] を押して画像を選びます。
- [⏪] を押すと 1 枚表示に戻ります。
- スクロール再生中に [▲] か [▼] を押すと、日付ごとにジャンプして画像を探せます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

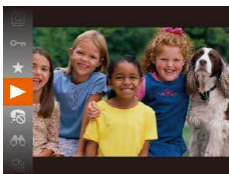
8 付録

索引



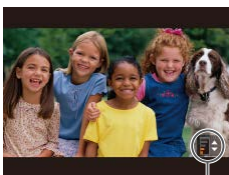


- 動画では、[SET]▶が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。



3 動画を再生する

- [⏏] を押したあと、[▲] か [▼] を押して [▶] を選び、もう一度 [⏏] を押すと再生がはじまります。



4 音量を調整する

- [▲] か [▼] を押して調節します。
- 音量バー(1)が消えても、[▲] か [▼] を押して調節することができます。

(1)

5 一時停止する

- [⏏] を押すたびに、一時停止/再開できます。
- 再生が終わると [SET]▶が表示されます。



- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。
- スクロール再生を使わないようにするには、MENU (📖25) で [▶] タブの [スクロール再生] を選び、[切] を選びます。
- 再生モードにしたときに表示される画像を最新の撮影画像からにしたいときは、MENU (📖25) で [▶] タブの [再生開始位置] を選び、[最新の画像] を選びます。
- 画像を切り換えたときの効果を変えるには、MENU (📖25) で [▶] タブの [再生効果] を選び、目的の効果を選びます。

表示を切り換える

▶ 静止画 ▶ 動画

画面表示は、[DISP] ボタンを押して切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、「再生時 (詳細情報表示)」(📖106) を参照してください。

	情報表示なし
	簡易情報表示
	詳細情報表示

■ 高輝度 (ハイライト) 警告

▶ 静止画 ▶ 動画

「詳細情報表示」(📖62) にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

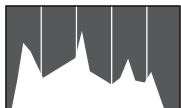
7 アクセサリー

8 付録

索引



■ ヒストグラム



▶ 静止画 ▶ 動画

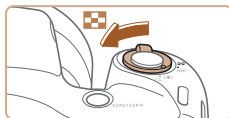
- 「詳細情報表示」(p.62) のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

画像を探したり、特定の画像だけを見る

一覧表示 (インデックス表示) で画像を探す

▶ 静止画 ▶ 動画

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。



1 一覧表示にする

- ズームレバーを [] 側に押すと一覧表示になり、さらに押すと表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーを [Q] 側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。



2 画像を選ぶ

- [▲] [▼] [◀] [▶] を押して画像を選びます。
- 選ばれている画像にはオレンジ色の枠が表示されます。
- [] を押すと選ばれている画像が 1 枚表示になります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



指定した条件で画像を探す

▶ 静止画 ▶ 動画

カード内に多くの画像があるときは、指定した条件で画像を検索して、目的の画像を素早く探せます。また、検索した画像だけをまとめて保護したり (P.67)、消したり (P.69) することもできます。

人物	顔が検出された画像を表示
日付	指定した撮影日の画像を表示
お気に入り	お気に入り設定した画像 (P.72) を表示
静止画/動画	静止画または動画のみを表示

1 検索条件を選ぶ

- を押して、メニュー項目の を選び、条件を選びます (P.24)。
- を選んだときは、表示された画面で を押して条件を選び、 を押します。

2 検索した画像を見る

- 検索した画像が黄色の枠つきで表示され、 か を押すと検索した画像だけを見ることができます。
- 検索した画像の表示を解除するときは、手順 1 の操作で を選びます。



- 目的の条件と一致する画像がないときは、条件を選ぶことはできません。



- 手順 2 で ボタンを押すと、情報の非表示/表示を切り換えられます。
- 検索した画像を表示しているとき (手順 2) は、「一覧表示 (インデックス表示) で画像を探す」 (P.63)、「拡大して見る」 (P.65)、「スライドショーで見る」 (P.65) などの操作で画像を見ることができます。また、「保護する」 (P.67) で [検索した全画像を保護]、「まとめて消す」 (P.69)、「印刷指定 (DPOF)」 (P.95)、「フォトブック指定」 (P.97) で [検索したすべての画像を指定] を選ぶと、検索した画像だけをまとめて操作することができます。
- 画像を編集して新規保存 (P.73 ~ P.76) などを行うとメッセージが表示されて、検索した画像の表示が解除されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

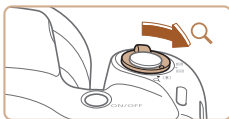
索引



いろいろな方法で画像を見る

拡大して見る

▶ 静止画 ▶ 動画



(1)

1 拡大する

- ズームレバーを [Q] 側に押すと拡大表示になり [SET] が表示されて、押したままにすると最大約 10 倍まで拡大できます。
- 画面には表示位置の目安 (1) が表示されます。
- ズームレバーを [] 側に押すと縮小表示になり、押したままにすると 1 枚表示に戻ります。

2 表示位置を移動したり、画像を切り換える

- [▲] [▼] [◀] [▶] を押すと、表示位置が移動します。
- [SET] が表示されている状態で [] を押すと [SET] 表示に切り換わり、[◀] か [▶] を押すと拡大したまま画像を切り換えられます。もう一度 [] を押すとともに戻ります。

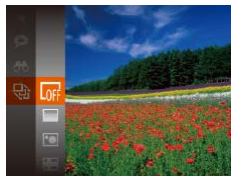


- 拡大表示のときに [MENU] ボタンを押すと、1 枚表示に戻すことができます。

スライドショーで見る

▶ 静止画 ▶ 動画

カードに記録されている画像を自動的に再生します。画像 1 枚あたりの表示時間は約 3 秒です。



- [] を押して、メニュー項目の [] を選び、目的の項目を選びます (24)。
- [画像読み込み中] が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- [MENU] ボタンを押すと終わります。



- スライドショー中に節電機能 (23) は働きません。



- 再生中に [] を押すと一時停止 / 再開ができます。
- 再生中に [◀] か [▶] を押すと画像を切り換えられ、[◀] か [▶] を押したままにすると早送りできます。
- 検索 (64) しているときは、対象の画像のみが再生されません。

設定を変える

スライドショーの繰り返しや再生画像 1 枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果 (再生効果) を変えられます。

1 設定画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[] タブの [スライドショー] を選びます (25)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

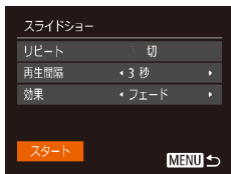
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





2 設定する

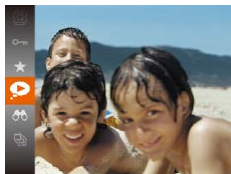
- 設定するメニュー項目を選び、目的の項目を選びます (📖25)。
- [スタート] を選んで [⏪] を押すと、設定した内容でスライドショーがはじまります。
- [MENU] ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

❗ [効果] で [バブル] を選んだときは、[再生間隔] は変えられません。

いろいろな画像を表示する (連想再生)

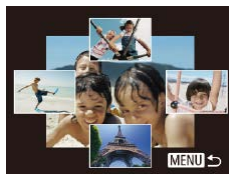
▶ 静止画 ▶ 動画

表示している画像をもとに、4つの画像をカメラが選んで表示します。その中から1つ選ぶとさらに4つの画像が表示されるので、思いがけない順番の再生が楽しめます。いろいろなシーンの画像をたくさん撮ったあとなどにおすすめです。



1 連想再生にする

- [⏪] を押して、メニュー項目の [🗨️] を選びます (📖24)。
- 4枚の画像が候補として表示されます。



2 画像を選ぶ

- [▲] [▼] [◀] [▶] を押して次に見たい画像を選びます。
- 選んだ画像が画面中央に表示され、次の4枚の候補が表示されます。
- [⏪] を押すと画面中央の画像が画面いっぱいに表示されます。もう一度 [⏪] を押すともとの表示に戻ります。
- [MENU] ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

❗ 次のときは連想再生を使えません。

- このカメラで撮影した静止画が50枚に満たないとき
- 対象の画像以外を表示しているとき
- 検索した画像を表示しているとき (📖64)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

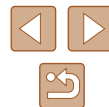
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

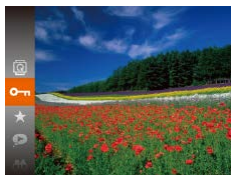
索引



保護する

▶ 静止画 ▶ 動画

大切な画像をカメラの消去機能（[69](#)）で誤って消さないよう、保護することができます。



- **[MENU]** を押し、メニュー項目の **[O-m]** を選ぶ（[24](#)）と、**[保護しました]** が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度 **[O-m]** を選び、**[MENU]** を押します。

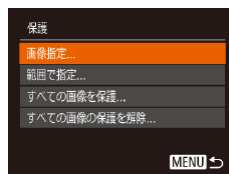


- カードを初期化（[80](#)、[81](#)）すると、保護された画像も消えます。



- 保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

メニューから操作する



1 設定画面を表示する

- **[MENU]** ボタンを押して、**[▶]** タブの **[保護]** を選びます（[25](#)）。

2 指定方法を選ぶ

- 目的のメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（[25](#)）。
- **[MENU]** ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1 枚ずつ指定する



1 [画像指定] を選ぶ

- 「メニューから操作する」の手順2（[67](#)）の操作で **[画像指定]** を選び、**[MENU]** を押します。

2 画像を選び指定する

- **[◀]** か **[▶]** を押して画像を選び、**[MENU]** を押すと **[O-m]** が表示されます。
- もう一度 **[MENU]** を押すと **[O-m]** が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

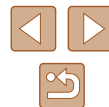
5 再生モード

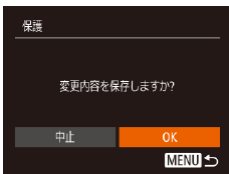
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





3 保護する

- [MENU] ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[⊕] を押します。



- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

範囲で指定する

1 [範囲で指定] を選ぶ

- 「メニューから操作する」の手順2 (P67) の操作で [範囲で指定] を選び、[⊕] を押します。



2 始点の画像を指定する

- [⊕] を押します。



- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[⊕] を押します。



3 終点の画像を指定する

- [▶] を押して [終点選択] にし、[⊕] を押します。



- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[⊕] を押します。
- 始点より前の画像は選べません。



4 保護する

- [▼] を押して [保護] を選び、[⊕] を押します。



- 手順4で [解除] を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

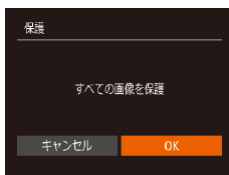
索引



すべての画像を保護する

1 [すべての画像を保護] を選ぶ

- 「メニューから操作する」の手順2 (67) の操作で [すべての画像を保護] を選び、[Ⓜ] を押します。



2 保護する

- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[Ⓜ] を押します。

すべての画像の保護を解除する

すべての画像の保護をまとめて解除することができます。解除するときは、「すべての画像を保護する」の手順1の操作で [すべての画像の保護を解除] を選び、手順2の操作を行います。

消す

▶ 静止画 ▶ 動画

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻せないで十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像 (67) は消えません。

1 消したい画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選びます。

2 消す

- [▼] を押します。
- [消去?] が表示されたら、[◀] か [▶] を押して [消去] を選び、[Ⓜ] を押します。
- 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、[◀]か[▶]を押して[キャンセル] を選び、[Ⓜ] を押します。



まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像はもとに戻せないで十分に確認してから消してください。ただし、保護された画像 (67) は消えません。

指定方法を選ぶ



1 設定画面を表示する

- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの [消去] を選びます (25)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

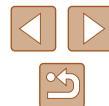
5 再生モード

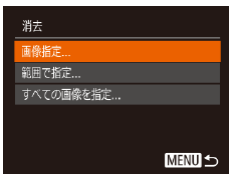
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





1 枚ずつ指定する



2 指定方法を選ぶ

- [▲] か [▼] を押して指定方法を選び、[MENU] を押します。
- [MENU] ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。

1 [画像指定] を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」の手順 2 (69) の操作で [画像指定] を選び、[MENU] を押します。

2 画像を選ぶ

- 「1 枚ずつ指定する」の手順 2 (67) の操作で画像を選ぶと、[✓] が表示されます。
- もう一度 [MENU] を押すと [✓] が消え、解除されます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。

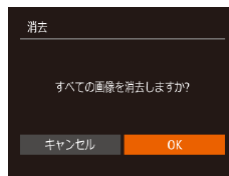
3 消す

- [MENU] ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[MENU] を押します。

範囲で指定する



すべての画像を指定する



1 [範囲で指定] を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」の手順 2 (69) の操作で [範囲で指定] を選び、[MENU] を押します。

2 画像を指定する

- 「範囲で指定する」の手順 2～3 (68) の操作で指定します。

3 消す

- [▼] を押して [消去] を選び、[MENU] を押します。

1 [すべての画像を指定] を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」の手順 2 (69) の操作で [すべての画像を指定] を選び、[MENU] を押します。

2 消す

- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[MENU] を押します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

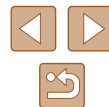
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

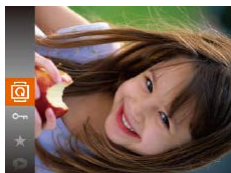
索引



回転する

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の向きを変えて保存することができます。



1 [Rotate] を選ぶ

- [MENU] を押して、メニュー項目の [Rotate] を選びます (P.24)。



2 回転する

- [◀] か [▶] を押すと指定した方向に90度単位で回転し、[OK] を押すと設定されます。

メニューから操作する



1 [回転] を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの [回転] を選びます (P.25)。



2 回転する

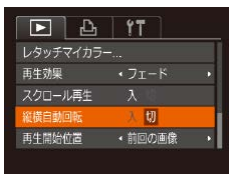
- [◀] か [▶] を押して画像を選びます。
- [MENU] を押すたびに90度単位で回転します。
- [MENU] ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。



- [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません (P.71)。

自動回転機能を切る

カメラの向きに応じて画像を自動回転する機能を使わないようにすることができます。



- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの [縦横自動回転] を選び、項目の [切] を選びます (P.25)。



- [切] にすると、画像の回転 (P.71) はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。
- 連想再生 (P.66) では、[切] に設定しても、縦位置で撮影された画像は縦位置で、撮影後に回転させた画像は回転した状態で表示されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

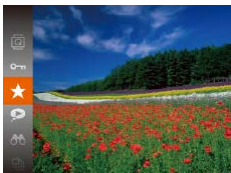


お気に入り設定をする

▶ 静止画 ▶ 動画

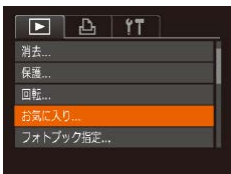
お気に入りを設定して、撮影した画像を分類できます。設定した画像だけを検索して、次の操作をすることができます。

- 「見る」(P61)、「スライドショーで見る」(P65)、「保護する」(P67)、「消す」(P69)、「印刷指定 (DPOF)」(P95)、「フォトブック指定」(P97)



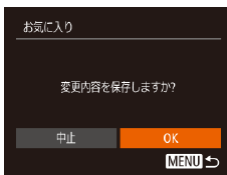
- [] を押して、メニュー項目の [**★**] を選びます (P24)。
- [お気に入り指定しました] が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度 [**★**] を選び、[] を押します。

メニューから操作する



1 「お気に入り」を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[] タブの [お気に入り] を選びます (P25)。



2 画像を選ぶ

- [] か [] を押して画像を選び、[] を押すと [**★**] が表示されます。
- もう一度 [] を押すと [**★**] が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。

3 設定する

- [MENU] ボタンを押すと確認画面が表示されます。
- [] か [] を押して [OK] を選び、[] を押します。



- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、お気に入りが設定されません。



- Windows 8、Windows 7をお使いのときは、お気に入り設定した画像をパソコンに取り込むと、評価が3 (★★★★☆☆) に設定されます (動画を除く)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



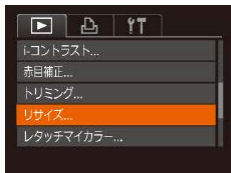
静止画を編集する

- 静止画の編集機能 (P.73 ~ P.75) は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を小さくする (リサイズ)

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。



1 「リサイズ」を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの「リサイズ」を選びます (P.25)。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[OK] を押します。

3 大きさを選ぶ

- [◀] か [▶] を押して大きさを選び、[OK] を押します。
- 「新規保存しますか？」が表示されます。

4 新規保存する

- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[OK] を押します。
- 別画像として保存されます。



5 画像を確認する

- [MENU] ボタンを押すと「保存した画像を表示します」が表示されます。
- [◀] か [▶] を押して「はい」を選び、[OK] を押します。
- 保存した画像が表示されます。

- 記録画素数 (P.37) が [S] の画像は、編集できません。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。

画像を切り抜く (トリミング)

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。



1 「トリミング」を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの「トリミング」を選びます (P.25)。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[OK] を押します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

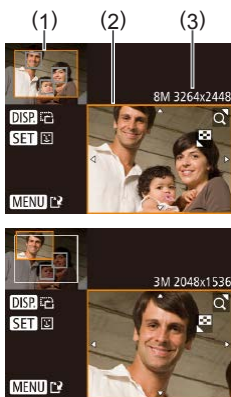
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





3 切り抜く範囲を調整する

- 画像を切り抜く範囲 (1) が枠で表示されます。
- 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像 (2) が表示されます。また、切り抜き後の記録画素数 (3) も確認できます。
- ズームレバーを動かすと枠の大きさが変わられます。
- [▲] [▼] [◀] [▶] を押すと枠の位置が移動できます。
- [DISP] ボタンを押すと枠の縦横が変わられます。
- 顔が検出された画像では、左上の画面の顔の位置に灰色の枠が表示されます。[⊕] を押すと別の枠に切り換わり、枠を中心にトリミングできます。
- [MENU] ボタンを押します。

4 新規保存して画像を確認する

- 「画像を小さくする (リサイズ)」の手順 4～5 (P.73) の操作を行います。



- 記録画素数が [S] の画像 (P.37) や、リサイズした [S] の画像 (P.73) は、編集できません。

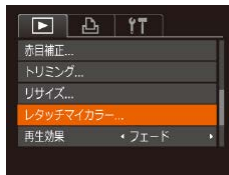


- トリミングできる画像の縦横比率は編集前と同じです。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。

画像の色調を変える (レタッチマイカラー)

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容は「画像の色調を変える (マイカラー)」(P.53) を参照してください。



1 「レタッチマイカラー」を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの [レタッチマイカラー] を選びます (P.25)。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[⊕] を押します。

3 項目を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して項目を選び、[⊕] を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- 「画像を小さくする (リサイズ)」の手順 4～5 (P.73) の操作を行います。



- 同じ画像に対して色調を繰り返し変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。



- 撮影時のマイカラー (P.53) と色調が若干異なることがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

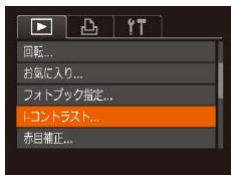
索引



明るさを補正する (i- コントラスト)

▶ 静止画 ▶ 動画

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は 4 種類から選べ、別画像として保存できます。



1 [i- コントラスト] を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[i] タブの [i- コントラスト] を選びます (P.25)。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[⊕] を押します。

3 項目を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して項目を選び、[⊕] を押します。

4 新規保存して画像を確認する

- 「画像を小さくする (リサイズ)」の手順 4 ~ 5 (P.73) の操作を行います。



- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなる場合があります。



- [オート] で思いどおりに補正されないときは、[弱] [中] [強] のいずれかを選んで補正します。

赤目を補正する

▶ 静止画 ▶ 動画

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。



1 [赤目補正] を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[i] タブの [赤目補正] を選びます (P.25)。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選びます。

3 補正する

- [⊕] を押します。
- 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」(P.65) の操作で画像を拡大／縮小できます。



4 新規保存して画像を確認する

- [▲] [▼] [◀] [▶] を押して [新規保存] を選び、[⊕] を押します。
- 別画像として保存されます。
- 「画像を小さくする (リサイズ)」の手順 5 (P.73) の操作を行います。



- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順 4 で [上書き保存] を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

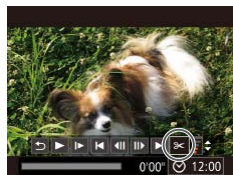
索引



動画を編集する

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した動画の前後を削除できます。



1 [⌘] を選ぶ

- 「見る」の手順 1～5 (P.61) の操作で [⌘] を選び、[⌘] を押します。
- 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。



2 編集範囲を指定する

- (1) は動画編集パネル、(2) は動画編集バーです。
- [▲] か [▼] を押して [⌘] または [⌘] を選びます。
- [◀] か [▶] を押して [⏪] を動かすと、編集できるところで [⌘] が表示されます。[⌘] を選ぶと [⌘] 位置より前部、[⌘] を選ぶと後部が削除されます。
- [⏪] を [⌘] 以外の位置に指定しても、[⌘] では 1 つ左側の [⌘] 位置よりも前部、[⌘] では 1 つ右側の [⌘] 位置よりも後部が削除されます。

3 編集した動画を確認する

- [▲] か [▼] を押して [▶] を選び、[⌘] を押すと、編集した動画が再生されます。
- もう一度編集するときは手順 2 の操作を行います。
- 編集を中止するときは、[▲] か [▼] を押して [⏪] を選び [⌘] を押したあと、[◀] か [▶] を押して [OK] を選び、もう一度 [⌘] を押します。



4 編集した動画を保存する

- [▲] か [▼] を押して [⏪] を選び、[⌘] を押します。
- [▲] [▼] [◀] [▶] を押して [新規保存] を選び、[⌘] を押します。
- 別動画として保存されます。



- 手順 4 で [上書き保存] を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、[上書き保存] しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーか AC アダプターキット (別売) (P.85) を使うことをおすすめします。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



6

設定メニュー

カメラの基本機能を変えて使いやすくなる

カメラの基本機能を変える

MENU (📖25) の [🔼] タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます。

音を鳴らさない

カメラの各種動作音や動画再生時の音声を鳴らさないようにできます。



- [消音] を選び、[する] を選びます。



- [DISP] ボタンを押したまま電源を入れても、音を鳴らさないようにできます。
- 音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき (📖61) の音声も鳴らなくなります。動画再生中に [▲] を押すと音声は鳴り、[▲] か [▼] を押すと音量を調整できます。

音量を変える

カメラの各種動作音の音量を変えられます。



- [音量] を選び、[🔊] を押します。
- 項目を選び、[◀] か [▶] を押して音量を変えます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

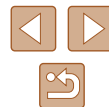
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



機能の説明を表示しない

FUNC. (24) や MENU (25) で項目を選ぶと、機能の説明が表示されます。この説明を表示しないようにすることができます。



- [機能ガイド] を選び、[切] を選びます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。



- [日付／時刻] を選び [OK] を押します。
- [◀] か [▶] を押して項目を選び、[▲] か [▼] を押して設定します。

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先(旅行先)のエリアを登録しておく、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。なお、世界時計を使うには、あらかじめ「日付／時刻を設定する」(17) で日付／時刻と自宅エリアを設定してください。



1 訪問先のエリアを設定する

- [エリア設定] を選び、[OK] を押します。
- [▲] か [▼] を押して [訪問先] を選び、[OK] を押します。
- [◀] か [▶] を押して訪問先エリアを選びます。
- [▲] か [▼] を押して [時] を選び、[◀] か [▶] を押して [分] にすると、サマータイム(1時間プラスされます)に設定されます。
- [OK] を押します。

2 訪問先のエリアに切り換える

- [▲] か [▼] を押して [訪問先] を選び、[MENU] ボタンを押します。
- 撮影画面 (105) に [訪問先] が表示されます。



- [訪問先] の状態で日付／時刻を変える (17) と、[自宅] の日時も自動的に変わります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



レンズ収納時間を変える

撮影状態から [] ボタンを押して約 1 分経過すると、安全のためレンズが収納されます (22)。[] ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を [0 秒] に設定します。



- [レンズ収納時間] を選び、[0 秒] を選びます。

エコモードを使う

撮影モードでのバッテリーの消費をおさえる機能です。カメラを操作していないときに、素早く画面を暗くして消費電力をおさえることができます。



1 設定する

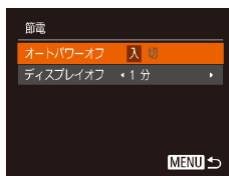
- [エコモード] を選び、[入] を選びます。
- 撮影画面 (105) に [ECO] が表示されます。
- カメラを操作しないと約 2 秒後に画面が暗くなり、その 10 秒後に画面が消えます。約 3 分後には電源が切れます。

2 撮影する

- 画面が消えている状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

節電機能 (オートパワーオフ) の設定を変える

節電機能 (オートパワーオフ) を切ったり、画面が消えるまでの時間 (ディスプレイオフ) を変えたりできます (23)。



- [節電] を選び [] を押します。
- 項目を選んだあと、[] か [] を押して設定を変えます。



- バッテリーの消費を防ぐため、通常は、[オートパワーオフ] を [入] にし、[ディスプレイオフ] を [1 分] 以下にすることをおすすめします。



- [ディスプレイオフ] は、[オートパワーオフ] が [切] のときも働きます。
- エコモード (79) を [入] にしているときは、節電機能は使えません。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



画面の明るさを変える

画面の明るさを変えられます。



- [液晶の明るさ] を選び、[◀] か [▶] を押して明るさを変えます。



- 撮影画面や再生モードで1枚表示のときに [DISP.] ボタンを1秒以上押し続けたままにすると、画面が最高の明るさになります ([↑] タブの [液晶の明るさ] 設定は無効になります)。もう一度 [DISP.] ボタンを1秒以上押し続けたままにするか、電源を入れたおすと、もとの明るさに戻ります。

起動画面を表示しない

電源を入れたときに、起動画面を表示しないようにできます。



- [起動画面] を選び、[切] を選びます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから初期化をしてください。

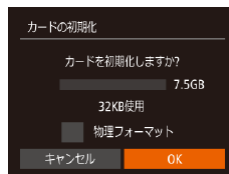
また、Eye-Fi カード (E99) では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

1 [カードの初期化] 画面を表示する

- [カードの初期化] を選び [⊕] を押します。

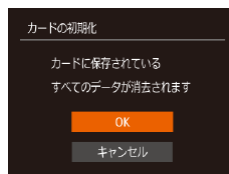
2 [OK] を選ぶ

- [▲] か [▼] を押して [キャンセル] を選んだあと [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[⊕] を押します。



3 初期化する

- [▲] か [▼] を押して [OK] を選び、[⊕] を押すと初期化が始まります。
- 初期化が終わると [カードの初期化が完了しました] が表示されるので、[⊕] を押します。



- カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

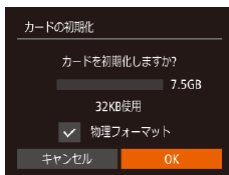




- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

■ カードを物理フォーマット（初期化）する

【カードが異常です】のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。



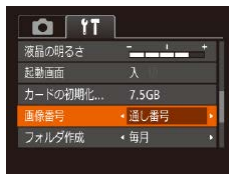
- 「カードを初期化する」の手順2 (📖80) の画面で、[▲] か [▼] を押して [物理フォーマット] を選び、[◀] か [▶] を押して [✓] を表示します。
- 「カードを初期化する」の手順2～3 (📖80) の操作で、初期化（物理フォーマット）します。



- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードを初期化する」(📖80) よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に [中止] を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に 0001～9999 の番号がつけられ、1つのフォルダに 2000 枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。



- 「[画像番号]」を選び、目的の項目を選びます。

通し番号	画像番号 9999 の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が 0001 に戻ります。



- [通し番号] [オートリセット] とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号 0001 の画像から順に保存したいときは、初期化 (📖80) したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ソフトウェアの使用説明書」(📖89) を参照してください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。



- [フォルダ作成] を選び、[毎日] を選びます。
- 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

認証マークを確認する

このカメラが対応している認証マークの一部は、画面に表示して確認できます。また、その他の認証マークは、本ガイドやカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。



- [認証マーク表示] を選び、[OK] を押します。

表示言語を変える

画面に表示される言語を変えられます。



- [言語] を選び [OK] を押します。
- [◀] か [▶] を押して言語を選び、[OK] を押します。



- 再生モードにして、[OK] を押したまま、すぐに [MENU] ボタンを押すことでも言語画面を表示できます。

その他の基本機能を変える

次の機能も [Y/T] タブで設定できます。

- [ビデオ出力方式] (87)
- [Eye-Fi 設定] (99)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

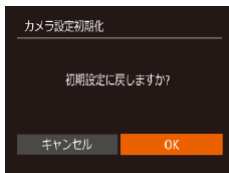
8 付録

索引



カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。



1 [カメラ設定初期化] 画面を表示する

- [カメラ設定初期化] を選び、[⏪] を押します。

2 初期状態に戻す

- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[⏪] を押します。
- カメラが初期状態に戻ります。



- 次の機能は初期状態に戻りません。
 - [📅] タブの [日付 / 時刻] (📖 78)、[エリア設定] (📖 78)、[言語] (📖 82)、[ビデオ出力方式] (📖 87)
 - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ (📖 53)
 - 撮影モード (📖 43)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

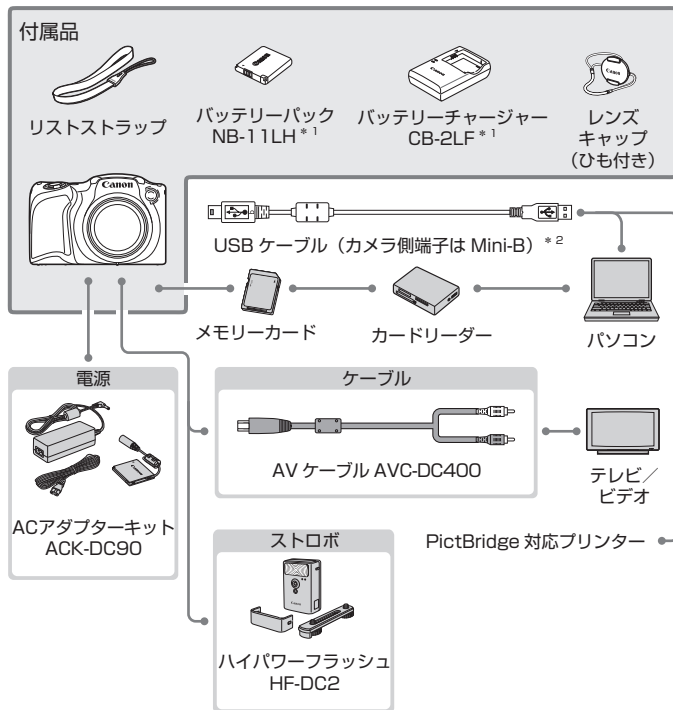


7

アクセサリ

別売アクセサリや市販の対応機器を使って楽しみかたを広げる

システムマップ



* 1 別売りも用意されています。

* 2 キヤノン純正品 (インターフェースケーブル IFC-400PCU) もあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリ

8 付録

索引



アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

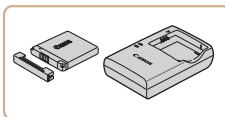
本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

別売アクセサリ

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源



バッテリーパック NB-11LH

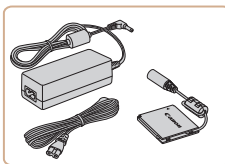
- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LF

- バッテリーパック NB-11LH 用のバッテリーチャージャーです。



- バッテリーには、カバーがついているので、充電したバッテリーは▲が見えるように、充電前のバッテリーは▲が隠れるようにカバーを取り付けると、充電状態を見分けることができます。
- バッテリーパック NB-11LH もお使いになれます。
- バッテリーチャージャー CB-2LD もお使いになれます。



AC アダプターキット ACK-DC90

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、この AC アダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリ

8 付録

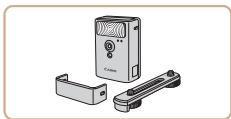
索引





- バッテリーチャージャーや AC アダプターキットは、AC 100 - 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。
- プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

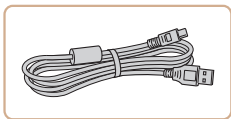
ストロボ



ハイパワーフラッシュ HF-DC2

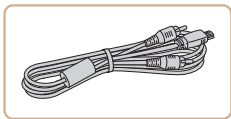
- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。

その他



インターフェースケーブル IFC-400PCU

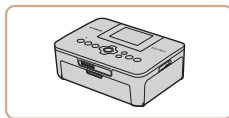
- パソコンやプリンターとカメラをつなぐケーブルです。



AV ケーブル AVC-DC400

- 撮影した画像をテレビに表示して楽しめます。

プリンター



キヤノン製 PictBridge 対応プリンター

- プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに撮影した画像を印刷できます。製品の詳細については、ホームページやカタログで確認していただくか、お客様相談センターへお問い合わせください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



別売アクセサリーの使いかた

▶ 静止画 ▶ 動画

テレビで見る

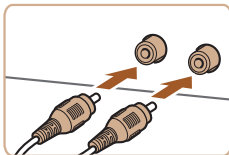
▶ 静止画 ▶ 動画

AV ケーブル AVC-DC400 (別売) でカメラとテレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。なお、お使いになるテレビとのつなぎかたや入力の切り換えかたについては、テレビの使用説明書を参照してください。



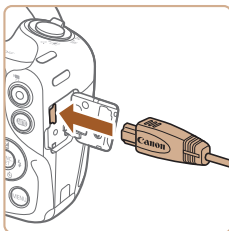
- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります (P.106)。

1 カメラとテレビの電源を切る



2 カメラとテレビをつなぐ

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの外部入力端子へしっかりと差し込みます。
- ケーブルのプラグの色と、テレビの外部入力端子の色をあわせてつないでください。
- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。



3 テレビの電源を入れて、外部入力に切り換える

- テレビの入力を、手順2の操作でつないだ外部入力に切り換えます。



4 カメラの電源を入れる

- [▶] ボタンを押して電源を入れます。
- 画像がテレビに表示されます (カメラの画面には何も表示されません)。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。



- 出力方式 (NTSC/PAL) があわないと、画像が正しく表示されません。[MENU] ボタンを押して、[▶] タブの [ビデオ出力方式] で出力方式を変えてください (日本国内の出力方式は、「NTSC」です)。

家庭用電源でカメラを使う

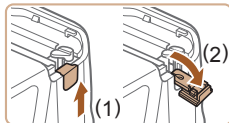
▶ 静止画 ▶ 動画

AC アダプターキット ACK-DC90 (別売) を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る

2 ふたを開ける

- 「バッテリーとカードを入れる」の手順1 (P.16) の操作でカード/バッテリー収納部のふたを開き、図のように通し部のふたを開きます。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

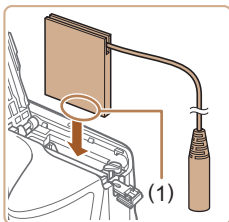
6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

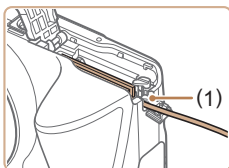
索引



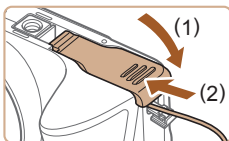


3 カプラーを入れる

- カプラーの端子部 (1) を図の向きにして、「バッテリーとカードを入れる」の手順 2 (P.16) のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。

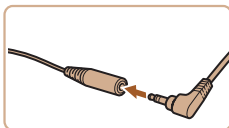


- カプラーのケーブルを通し部 (1) に通します。



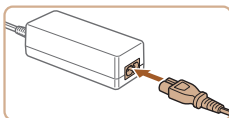
4 ふたを閉める

- ふたを (1) の方向へたおして押さえたまま、(2) の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。



5 電源コードを取り付ける

- カプラーのケーブルの端子にアダプターのプラグを差し込みます。



- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。



- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



ソフトウェアを使う

ここでは、弊社 Web サイトからダウンロードするソフトウェアの紹介のほか、インストール方法、画像をパソコンに取り込む方法について説明します。

ソフトウェアについて

ソフトウェアを弊社 Web サイトからダウンロードしてインストールすると、パソコンで次のようなことができます。

- CameraWindow (カメラウィンドウ)
 - 画像の取り込みやカメラの各種設定
- ImageBrowser EX (イメージブラウザー イーエックス)
 - 画像の閲覧をはじめ、検索や整理などの画像管理
 - 画像の印刷や各種の編集



- インターネットに接続できる環境が必要なため、プロバイダーとの接続料金や通信料金が別途かかります。

ソフトウェアの使用説明書

ソフトウェアを使うときに参照してください。各ソフトウェアのヘルプ機能から参照することができます (一部のソフトウェアは除く)。

パソコンの環境を確認する

ソフトウェアがお使いになれるパソコンは以下のとおりです。詳細なシステム構成や最新の OS を含む対応状況については弊社 Web サイトを確認してください。

OS	Windows	Mac OS
	Windows 8/8.1 Windows 7 SP1	Mac OS X 10.9 Mac OS X 10.8



- 最新の OS を含む対応状況については弊社 Web サイトを確認してください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



インストールする

ここでは、Windows 7 と Mac OS X 10.8 を使って説明をしています。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットへ接続し、「<http://cweb.canon.jp/e-support/software/index.html>」に接続します。
- ソフトウェアをダウンロードします。



2 インストールする

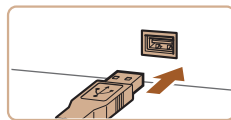
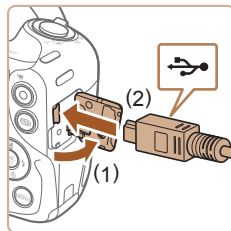
- [おまかせインストール] をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。
- お使いのパソコンやインターネット環境によってはインストールに時間がかかることがあります。
- インストールを終えると表示される画面の [完了] または [再起動] をクリックします。



- ソフトウェアは、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などをインターネットを使って行います（一部のソフトウェアは除く）。
- はじめてカメラとパソコンをつないだときにドライバーがインストールされるため、操作ができるようになるまでに時間がかかることがあります。

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windows 7 と Mac OS X 10.8 を使って説明をしています。その他の機能については、各ソフトウェアのヘルプ機能から参照することができます（一部のソフトウェアは除く）。



1 カメラとパソコンをつなぐ

- カメラの電源が切れた状態でふたを開き(1)、USB ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます(2)。

- USB ケーブルの大きい方のプラグをパソコンの USB 端子に差し込みます。パソコンの USB 端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。

2 電源を入れて CameraWindow (カメラウィンドウ) を表示する

- [▶] ボタンを押して電源を入れます。
- Mac OS では、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindow が表示されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





- Windows では、以下の操作を行います。
- 表示された画面で [] のプログラムを変えるためのリンクをクリックします。



- [画像をキヤノンカメラからダウンロードします] を選び、[OK] をクリックします。



- [] をダブルクリックします。

3 画像を取り込む

- [カメラ内の画像の取り込み] をクリックしたあと、[未転送画像を取り込む] をクリックします。
- 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。
- 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの [] ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ソフトウェアの使用説明書」(P89) を参照してください。



- Windows 7 で手順 2 の画面が表示されないときは、タスクバーの [] をクリックします。
- Mac OS で手順 2 の操作をしても CameraWindow が表示されないときは、Dock (デスクトップ下部に表示されるバー) の [CameraWindow] アイコンをクリックします。
- ソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
 - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
 - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
 - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
 - OS のバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
 - 動画編集など、ソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



印刷する

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した画像は、カメラとプリンターをつないで印刷することができます。また、カメラで画像を指定しておき、一括印刷、写真店への印刷注文、フォトブックの注文や印刷をすることができます。

なお、ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CP シリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

かんたん印刷

▶ 静止画 ▶ 動画

撮影した画像は、カメラと PictBridge (ピクトブリッジ) 対応プリンター (別売) を USB ケーブルでつないで、かんたんに印刷できます。

1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。
- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつながりかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる



4 カメラの電源を入れる

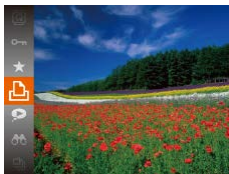
- [▶] ボタンを押して電源を入れます。

5 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選びます。

6 印刷画面を表示する

- [⊞] を押したあと、[凸] を選び、もう一度 [⊞] を押します。



7 印刷する

- [▲] か [▼] を押して [印刷] を選び、[⊞] を押します。
- 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順 5 からの操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。



- キヤノン製 PictBridge 対応プリンター (別売) については、「プリンター」(P.86) を参照してください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



印刷設定をする

▶ 静止画 ▶ 動画



1 印刷画面を表示する

• 「かんたん印刷」の手順 1～6 (P92) の操作でこの画面を表示します。

2 設定する

• [▲] か [▼] を押して項目を選び、[◀] か [▶] を押して内容を選びます。

🖨️	標準設定	プリンターの設定にしがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	－
📄	標準設定	プリンターの設定にしがいます。
	切	－
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目 1	赤く写った目を補正します。
📄	印刷枚数	印刷枚数を指定します。
トリミング	－	印刷する範囲を指定します (P93)。
用紙設定	－	用紙サイズやレイアウトなどを指定します (P94)。

画像を切り抜いて印刷する (トリミング)

▶ 静止画 ▶ 動画

画像の一部を切り抜いて印刷することができます。



1 「トリミング」を選ぶ

- 「印刷設定をする」の手順 1 (P93) の操作で印刷画面を表示したあと、「トリミング」を選び、[OK] を押します。
- 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。



2 切り抜く範囲を指定する

- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。
- [▲] [▼] [◀] [▶] を押して枠の位置を変えます。
- [DISP] ボタンを押すと枠が回転します。
- [OK] を押して設定します。

3 印刷する

- 「かんたん印刷」の手順 7 (P92) の操作で印刷します。



- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで「日付写し込み」の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



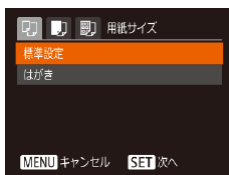
■ 用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する

▶ 静止画 ▶ 動画



1 [用紙設定] を選ぶ

- 「印刷設定をする」の手順 1 (📖93) の操作で印刷画面を表示したあと、[用紙設定] を選び、[⏏] を押します。



2 用紙サイズを選ぶ

- [▲] か [▼] を押して内容を選び、[⏏] を押します。



3 用紙タイプを選ぶ

- [▲] か [▼] を押して内容を選び、[⏏] を押します。



4 レイアウトを選ぶ

- [▲] か [▼] を押して内容を選びます。
- [複数画像] を選んだときは、[◀] か [▶] を押して印刷枚数を選びます。
- [⏏] を押します。

5 印刷する

■ レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしています。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
ID フォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数がLで、縦横比が4:3の画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

■ 証明写真を印刷する

▶ 静止画 ▶ 動画

1 [ID フォト] を選ぶ

- 「用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する」の手順 1～4 (📖94) の操作で [ID フォト] を選び、[⏏] を押します。

2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- [▲] か [▼] を押して項目を選んだあと、[◀] か [▶] を押して長さを選び、[⏏] を押します。



お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引





3 印刷する範囲を選ぶ

- 「画像を切り抜いて印刷する（トリミング）」の手順 2 (P.93) の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画を印刷する

▶ 静止画 ▶ 動画



1 印刷画面を表示する

- 「かんたん印刷」の手順 1～6 (P.92) の操作で動画を選び、この画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

- 「▲」か「▼」を押して「コマ」を選び、「◀」か「▶」を押して印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1 コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1枚の用紙に並べて印刷します。[キャプション] を [入] にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。



- [コマ] を押したあと、[OK] を選んで [コマ] を押すと印刷が中止されます。
- CP720 / CP730 以前のキヤノン PictBridge 対応プリンターでは、[ID フォト] や [連続コマ] は指定できません。

印刷指定 (DPOF)

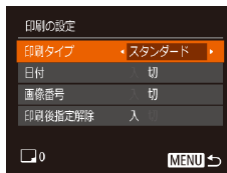
▶ 静止画 ▶ 動画

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷 (P.97) や写真店への印刷注文をすることができます (最大 998 画像)。なお、この指定方法は、DPOF (Digital Print Order Format) 規格に準拠しています。

印刷内容を指定する

▶ 静止画 ▶ 動画

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。



- [MENU] ボタンを押して、[コマ] タブの [印刷の設定] を選んだあと、項目を選び、設定します (P.25)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	—
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	—
印刷後 指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	—



- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、[!] が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- [日付] を [入] に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。



- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] の両方を [入] にはできません。
- 一部のキャノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。
- 日付の並びは、[設定] タブの [日付/時刻] で設定した内容で印刷されます (P.17)。

1枚ずつ枚数を指定する

▶ 静止画 ▶ 動画



1 [印刷する画像を指定] を選ぶ

- [MENU] ボタンを押して、[凸] タブの [印刷する画像を指定] を選び、[OK] を押しします。

2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[OK] を押しします。
- 枚数指定ができるようになります。
- [インデックス] では、指定されると [✓] が表示され、もう一度 [OK] を押すと解除されて [✓] が消えます。



3 枚数を設定する

- [▲] か [▼] を押して枚数を指定します (最大 99 枚)。
- 手順 2 ~ 3 の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- [インデックス] では枚数の指定ができません。手順 2 の操作で画像のみを選んでください。
- [MENU] ボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ 範囲で指定する

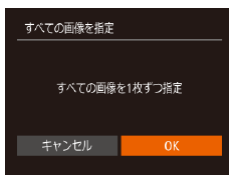
▶ 静止画 ▶ 動画



- 「1枚ずつ枚数を指定する」の手順1 (📖96) の操作で「範囲で指定」を選び、[Ⓞ]を押します。
- 「範囲で指定する」の手順2～3 (📖68) の操作で指定します。
- [▲]か[▼]を押して「画像指定」を選び、[Ⓞ]を押します。

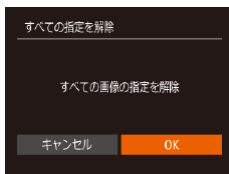
■ すべての画像を指定する

▶ 静止画 ▶ 動画



- 「1枚ずつ枚数を指定する」の手順1 (📖96) の操作で「すべての画像を指定」を選び、[Ⓞ]を押します。
- [◀]か[▶]を押して「OK」を選び、[Ⓞ]を押します。

■ すべての指定を解除する



- 「1枚ずつ枚数を指定する」の手順1 (📖96) の操作で「すべての指定を解除」を選び、[Ⓞ]を押します。
- [◀]か[▶]を押して「OK」を選び、[Ⓞ]を押します。

■ 印刷指定 (DPOF) した画像を印刷する

▶ 静止画 ▶ 動画



- 印刷指定した画像 (📖95～📖97) があるときは、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐとこの画面が表示されます。[▲]か[▼]を押して「すぐに印刷」を選び、[Ⓞ]を押すと、印刷指定した画像をかたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

■ フォトブック指定

▶ 静止画 ▶ 動画

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定(最大998画像)し、ソフトウェアを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブック注文するときや、お使いのプリンターで印刷するとき便利です。

■ 指定方法を選ぶ



- [MENU] ボタンを押して、[▶] タブの「フォトブック指定」を選んだあと、指定方法を選びます。



- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、[!] が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

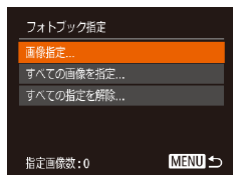




- パソコンに取り込んだあとは、「ソフトウェアの使用説明書」(P89) やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

1 枚ずつ指定する

▶ 静止画 ▶ 動画



1 [画像指定] を選ぶ

- 「指定方法を選ぶ」(P97) の操作で [画像指定] を選び、[OK] を押します。

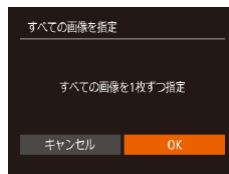


2 画像を選ぶ

- [◀] か [▶] を押して画像を選び、[OK] を押します。
- [✓] が表示されます。
- もう一度 [OK] を押すと解除され、[✓] が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- [MENU] ボタンを押すと設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する

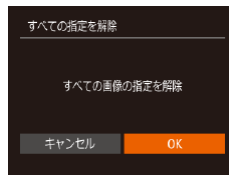
▶ 静止画 ▶ 動画



- 「指定方法を選ぶ」(P97) の操作で [すべての画像を指定] を選び、[OK] を押します。
- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[OK] を押します。

すべての指定を解除する

▶ 静止画 ▶ 動画



- 「指定方法を選ぶ」(P97) の操作で [すべての指定を解除] を選び、[OK] を押します。
- [◀] か [▶] を押して [OK] を選び、[OK] を押します。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

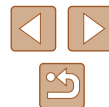
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



Eye-Fi カードを使う

▶ 静止画 ▶ 動画

Eye-Fi カードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前に確認してください (112)。

セットアップした Eye-Fi カードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。

画像の転送は Eye-Fi カードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。



- Eye-Fi カードの使用中は、次のことに注意してください。
 - [Eye-Fi 通信] を [しない] に設定 (110) しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前に Eye-Fi カードを取り出しおいてください。
 - 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくは、カードの使用説明書を参照してください。
 - Eye-Fi 通信の接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
 - Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
 - バッテリーの消費が早くなります。
 - カメラの動作が遅くなります。[Eye-Fi 通信] を [しない] に設定すると解決することがあります。

Eye-Fi カードをカメラに入れると、撮影画面 (情報表示時) や再生画面 (簡易情報表示時) で通信状態を確認できます。

(灰色点灯)	未接続
(白点滅)	接続中
(白点灯)	転送待機
(アニメーション)	転送中 ^{*1}
	中断
	通信停止
	Eye-Fi カード情報取得エラー ^{*2}

*1 画像の転送中は、節電機能が働きません (123)。

*2 電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。

転送された画像には、 が表示されます。

通信情報を確認する

接続先 SSID や通信状態を確認できます。



- [MENU] ボタンを押して、[F1] タブの [Eye-Fi 設定] を選び、 を押します。
- [通信情報一覧] を選び、 を押します。
- 通信情報一覧が表示されます。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



Eye-Fi 通信をしない

Eye-Fi 通信をしない設定にできます。



- [MENU] ボタンを押して、[P1] タブの [Eye-Fi 設定] を選び、[OK] を押します。
- [Eye-Fi 通信] を選び、[しない] を選びます。



- Eye-Fi カードを入れていないときや、ライトプロテクトスイッチがある Eye-Fi カードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、[Eye-Fi 設定] が表示されません。そのため、ライトプロテクトスイッチがある Eye-Fi カードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、設定を変えることができませんので注意してください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

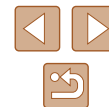
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



8

付録

カメラを使うときに役立つ情報

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- バッテリーを充電してください (115)。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください (116)。
- カード/バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください (116)。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。バッテリーの端子部が他の金属にふれないようにして、ポケットなどで温めてからお使いください。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。
- 上記を確認しても、充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

レンズが出たままでも収納されない

- 電源を入れたまま、カード/バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください (116)。

バッテリーがふくらむ

- バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる (1187)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



撮影

撮影できない

- 再生モードのとき (M61) は、シャッターボタンを半押ししてください (M23)。

暗い場所での画面表示がおかしい (M24)

撮影中の画面表示がおかしい

- 次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。
 - カメラに強い光があたると、表示が黒くなることがあります。
 - 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらつくことがあります。
 - 明るい光源を撮影すると、画面に赤紫色の帯が表示されることがあります。

画像に日付が写し込まれない

- [日付/時刻]の設定 (M17) だけでは写し込まれませんので、[日付写し込み]を設定してください (M35)。
- [日付写し込み]が設定 (M35) できない撮影モード (M110) では、写し込みはされません。

シャッターボタンを押したら、画面に [F] が点滅表示されて撮影できない (M30)

シャッターボタンを半押ししたときに、[Q] が表示される (M30)

- [手ブレ補正] を [入] にしてください (M60)。
- ストロボを上げて、ストロボモードを [F] にしてください (M58)。
- ISO感度を高くしてください (M51)。
- 三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するとき、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします (M60)。

画像がボケて撮影される

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください (M23)。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください (M116)。
- [AF補助光] を [入] にしてください (M40)。
- 意図しない機能 (マクロ撮影など) が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください (M55、M58)。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- ストロボを上げて、ストロボモードを [F] にしてください (M58)。
- 露出補正で明るさを補正してください (M50)。
- i-コントラストで補正してください (M52、M75)。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください (M50、M51)。

被写体が明るすぎる (白トビする)

- ストロボを下げて、ストロボモードを [Q] にしてください (M28)。
- 露出補正で明るさを補正してください (M50)。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください (M50、M51)。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる (M30)

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください (M116)。
- ISO感度を高くしてください (M51)。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる (白トビする)

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください (M116)。
- ストロボを下げて、ストロボモードを [Q] にしてください (M28)。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る

- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる

- ISO感度を低くして撮影してください (M51)。

目が赤く写る (M37)

- [赤目緩和ランプ] を [入] に設定してください (M40)。ストロボ撮影のときは、ランプ (前面) (M3) が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づくと効果が上がります」。
- 赤目補正で補正してください (M75)。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください (P81)。

撮影機能や FUNC. メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC. メニュー 一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」(P107～P110) で確認してください。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています (P80、P116)。

画面に [●] が表示され、撮影が自動的に終わった

- カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。
 - カードをこのカメラで物理フォーマットする (P81)。
 - 画質を変える (P38)。
 - 書き込み速度の速いカードを使う (P116)。

ズームできない

- [鳥] モード (P45) では、動画撮影中にズームできません。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ソフトウェアの使用説明書」(P89) を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください (P81)。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム (コマ) 落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

動画を再生したときに音声が聞こえない

- [消音] を [する] に設定 (P77) しているときや、音声が小さいときは、音量を調整してください (P77)。
- [鳥] モード (P45) では音声が録音されていないため、音は出ません。

カード

カードが認識されない

- カードを入れたままで、もう一度電源を入れなおしてください (P22)。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

- カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。
 - [▶] ボタンを押して再生モードにしたあと、[MENU] ボタンを押したまま、[▲] と [●] を同時に押します。表示された画面で [◀] か [▶] を押して [B] を選び、[●] を押します。

Eye-Fi カード

画像が転送できない (P99)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます (16)。

カードがロックされています

- カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます (16)。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます (16)。

カードが異常です (81)

- 使えるカード (2) を初期化して正しい向きで入れても (16) 同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影 (28、42、49) や編集 (73) はできません。画像を消して (69) 空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します (16)。

バッテリーを充電してください (15)

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています (67)

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます

／再生できません (MOV) ／再生できません (MP4)

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／連想再生できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／処理できません／指定できない画像です

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、以下の機能が使えないことがあります。また、動画では、*の機能が使えません。

拡大 (65)*、連想再生 (66)*、回転 (71)*、お気に入り (72)、編集 (73)*、印刷指定 (95)*、フォトブック指定 (97)*

指定範囲が正しくありません

- 画像を範囲指定 (68、70、97) するとき、始点に終点より遅い番号の画像、または終点に始点より早い番号の画像を指定しようとした。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定 (95) やフォトブック指定 (97) の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします。
- 印刷指定 (95) やフォトブック指定 (97) を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します。
- 保護 (67)、消去 (69)、お気に入り (72)、印刷指定 (95)、フォトブック指定 (97) で、501枚以上の画像を指定しようとした。

ファイル名が作成できません

- カード内の画像を保存するフォルダの番号が最大 (999) になっていて、各フォルダに保存されている画像の番号も最大 (9999) になっているため、フォルダの作成や撮影した画像の記録ができません。【F1】タブで「画像番号」を「オートリセット」に変えるか (81)、カードを初期化します (80)。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました (エラー番号)

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号 (Exx) を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は、プリンターにつないでも正しく印刷 (92) できないことがあります。

印刷エラー

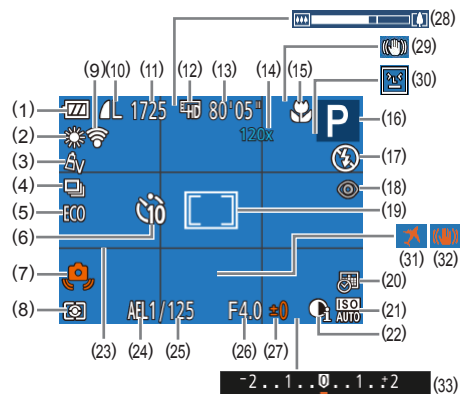
- 用紙サイズの設定を確認してください (94)。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れなおして、もう一度設定してください。

インク吸収体が満杯です

- お使いのキャノン製インクジェットプリンターに付属のパーソナル機器修理受付センター、またはお近くの修理受付窓口にてインク吸収体の交換を依頼してください。

画面の表示内容一覧

撮影時 (情報表示あり)



- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| (1) バッテリー残量表示 (106) | (12) 動画の画質 (38) |
| (2) ホワイトバランス (52) | (13) 撮影可能時間 (116) |
| (3) マイカラー (53) | (14) ズーム倍率 (33)、デジタルテレコンバーター (55) |
| (4) ドライブモード (35) | (15) フォーカスゾーン (54、55)、AF ロック (58) |
| (5) エコモード (79) | (16) 撮影モード (107)、シーンアイコン (31) |
| (6) セルフタイマー (33) | (17) ストロボモード (58) |
| (7) 手ブレ警告 (30) | (18) 赤目自動補正 (37) |
| (8) 測光方式 (51) | (19) AF フレーム (55)、スポット測光枠 (51) |
| (9) Eye-Fi 通信状態 (99) | (20) 日付写し込み (35) |
| (10) 静止画の圧縮率 (59)、記録画素数 (37) | |
| (11) 撮影可能枚数 (115) | |

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

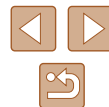
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



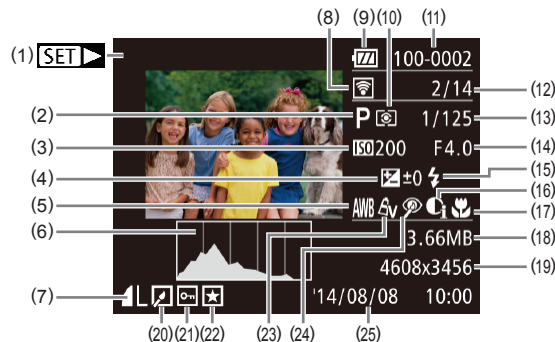
- (21) ISO 感度 (P51)
- (22) i-コントラスト (P52)
- (23) グリッドライン (P38)
- (24) AE ロック (P50)、FE ロック (P59)
- (25) シャッタースピード
- (26) 絞り数値
- (27) 露出補正量 (P50)
- (28) ズームバー (P28)
- (29) 手ブレ補正アイコン (P32)
- (30) 目つむり検出 (P39)
- (31) エリア設定 (P78)
- (32) 手ブレ補正 (P60)
- (33) 露出補正バー (P50)

■ バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
(赤く点滅)	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを充電してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

再生時 (詳細情報表示)



- (1) 動画 (P28、P61)
- (2) 撮影モード (P107)
- (3) ISO 感度 (P51)、倍速 (P45)
- (4) 露出補正量 (P50)
- (5) ホワイトバランス (P52)
- (6) ヒストグラム (P63)
- (7) 圧縮率 (画質) (P59) / 記録画素数 (P37)、MOV (動画)
- (8) Eye-Fi 転送済み画像 (P99)
- (9) バッテリー残量表示 (P106)
- (10) 測光方式 (P51)
- (11) フォルダ番号 - 画像番号 (P81)
- (12) 再生画像番号 / 総画像数
- (13) シャッタースピード (静止画)、画質 / フレーム数 (動画) (P38)
- (14) 絞り数値
- (15) ストロボ発光 (P58)
- (16) i-コントラスト (P52、P75)
- (17) フォーカスゾーン (P54、P55)
- (18) ファイルサイズ
- (19) 静止画：記録画素数 (P115)
動画：再生時間 (P116)
- (20) 画像編集 (P73)
- (21) 保護 (P67)
- (22) お気に入り (P72)
- (23) マイカラー (P53、P74)
- (24) 赤目補正 (P37、P75)
- (25) 撮影日時 (P17)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



撮影タブメニュー 一覧

AF フレーム (55)

顔優先 AiAF*1

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / /

ストロボ設定 (37、40)

赤目自動補正

入

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

赤目緩和ランプ

入 / 切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

トコントラスト (52)

オート

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

撮影直後のレビュー表示 (40)

表示時間

切 / クイック / 2 秒 / 4 秒 / 8 秒 / ホールド

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

表示情報

非表示 / 詳細表示

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

目つくり検出 (39)

入

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

グリッドライン (38)

入 / 切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

手ブレ補正設定 (60)

手ブレ補正

入 / 切

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

撮影時

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

ダイナミック IS

1

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

2

AUTO / P / LIVE /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  / 

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



再生タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
スライドショー	📖65
消去	📖69
保護	📖67
回転	📖71
お気に入り	📖72
フォトブック指定	📖97
i-コントラスト	📖75
赤目補正	📖75
トリミング	📖73
リサイズ	📖73
レタッチマイカラー	📖74
再生効果	📖61
スクロール再生	📖61
縦横自動回転	📖71
再生開始位置	📖61

印刷タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
印刷	-
印刷する画像を指定	📖96
範囲で指定	📖97
すべての画像を指定	📖97
すべての指定を解除	📖97
印刷の設定	📖95

再生モードの FUNC. メニュー 一覧

項目	参照ページ
回転	📖71
保護	📖67
お気に入り	📖72
印刷	📖92
動画再生	📖61
連想再生	📖66
画像の検索	📖64
スライドショー	📖65

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

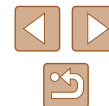
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。
- バッテリーを長期間保管するときは、バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、ビニール袋などに入れて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。

主な仕様

カメラの仕様について

カメラ部有効画素数（最大）	約 1600 万画素
レンズ焦点距離	30 倍ズーム：4.3 (W) - 129.0 (T) mm (35mm フィルム換算：24 (W) - 720 (T) mm)
液晶モニター	3.0 型 TFT カラー液晶 有効画素数：約 23.0 万ドット
ファイルフォーマット	DCF 準拠、DPOF 対応 (Version 1.1)
データタイプ	静止画：Exif 2.3 (JPEG) 動画：MOV（映像：MPEG-4 AVC / H.264、音声：リニア PCM (モノラル)）
インターフェース	Hi-Speed USB アナログ音声出力 (モノラル) アナログ映像出力 (NTSC/PAL)
電源	バッテリーパック NB-11LH AC アダプターキット ACK-DC90
大きさ (CIPA 準拠)	104.4 x 69.1 x 80.1 mm
質量 (CIPA 準拠)	約 313 g (電池・メモリーカード含む) 約 297 g (本体のみ)

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ デジタルズームの焦点距離 (35mm フィルム換算)

デジタルズーム [入]	24 - 2880 mm (光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離)
デジタルテレコン 1.6 倍	38.4 - 1152.0 mm
デジタルテレコン 2.0 倍	48.0 - 1440.0 mm

■ 撮影できる枚数・時間、再生できる時間

撮影枚数	約 190 枚
撮影枚数 (エコモード時)	約 260 枚
動画撮影時間 *1	約 50 分
動画撮影時間 (連続時 *2)	約 1 時間 30 分
再生時間 *3	約 5 時間

*1 次の条件で撮影した時間です。

- AUTO モード
- 画質 [E4HD]
- 撮影、停止、ズーム、電源の入 / 切を繰り返し

*2 次の条件で撮影した時間です。

- AUTO モード
- 画質 [E4HD]
- ズームなどの操作なし
- 動画の容量が 4 GB になるか撮影時間が約 29 分 59 秒になって撮影が自動停止したときは、すぐに撮影を再開

*3 静止画をスライドショーで再生したときの時間です。

- 撮影枚数は、CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準によります。
- 撮影枚数・時間は、撮影条件により少なくなることがあります。
- フル充電状態での枚数・時間です。

■ 1 枚のカードに撮影できる枚数

縦横比 (📖36) が 4:3 のときに、1 枚のカードに撮影できる枚数は次のとおりです。なお、縦横比によって撮影できる枚数は変わります。

記録画素数 (ピクセル)	圧縮率	1 枚のカードに撮影できる枚数 (約・枚)	
		8 GB	32 GB
L (ラージ) 16M/ 4608x3456		1058	4272
		1705	6883
M1 (ミドル 1) 8M/3264x2448		1996	8059
		3069	12391
M2 (ミドル 2) 3M/2048x1536		4723	19064
		8469	34184
S (スモール) 0.3M/640x480		27291	110150
		40937	165225

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



1枚のカードに撮影できる時間

画質	1枚のカードに撮影できる時間	
	8 GB	32 GB
HD	1時間 11分 43秒	4時間 49分 46秒
VGA	3時間 24分 26秒	13時間 45分 52秒

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 一度の撮影で動画の容量が4GBになるか、撮影時間が[HD]では約29分59秒、[VGA]では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス2以上のカードを使用することをおすすめします。

ストロボ調光範囲

もっとも広角側 (W) にしたとき	50 cm - 5.0 m
もっとも望遠側 (T) にしたとき	1.4 - 3.0 m

撮影距離

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側 (W) にしたとき	もっとも望遠側 (T) にしたとき
AUTO	-	0 cm - ∞	1.4 m - ∞
上記以外	A	5 cm - ∞	1.4 m - ∞
	花*	0 - 50 cm	-
	山*	3 m - ∞	3 m - ∞

*撮影モードによっては、選択できません。

連続撮影の速さ

撮影モード	速さ
AUTO P	約0.8枚/秒
光	約3.2枚/秒

シャッタースピード

[AUTO] モードで自動設定される範囲	1 - 1/1600 秒
----------------------	--------------

絞り

F値	F3.4 - F8.0 (W)、F5.8 - F8.0 (T)
----	---------------------------------

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ バッテリーパック NB-11LH

形式： リチウムイオン充電電池
公称電圧： DC 3.6 V
公称容量： 800 mAh
充放電回数： 約 300 回
使用温度： 0 - 40℃
大きさ： 34.6 x 40.1 x 5.2 mm
質量： 約 15 g

■ バッテリーチャージャー CB-2LF

定格入力： AC 100 V - 240 V (50/60 Hz)
定格出力： DC 4.2 V、0.41 A
充電時間： 約 2 時間 20 分 (NB-11LH 充電時)
充電表示： 充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯 (2 灯式)
使用温度： 5 - 40℃

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



索引

アルファベット

A

ACアダプターキット 85, 87
AEロック 50
AFフレーム 55
AFロック 58
AVケーブル 86, 87

C

CameraWindow (パソコン) 89

D

DCカプラー 87
DPOF 95

E

Eye-Fiカード 2, 99

F

FEロック 59
FUNC.メニュー
一覧 108, 113
基本操作 24

I

ISO感度 51
i-コントラスト 52, 75

P

P (撮影モード) 49
PictBridge
(ピクトブリッジ) 86, 92

S

SD/SDHC/SDXCカード → カード

かな

あ

赤目補正 37, 75
アクセサリ 85
圧縮率 (画質) 59

い

色あい (ホワイトバランス) 52
印刷 92

う

打上げ花火 (撮影モード) 43

え

エコモード 79
エラー表示 104
遠景 (フォーカスゾーン) 55

お

オートモード (撮影モード) 19, 28
オールドボスター (撮影モード) 44
お気に入り設定 72
音 77

か

カード 2
撮影できる時間 116
海外で使う 78
回転 71
顔セルフタイマー (撮影モード) 47
顔優先 AiAF
(AFフレームモード) 56
拡大表示 65
画質 → 圧縮率 (画質)
画像
消す 69
再生 → 見る
表示時間 40
保護 67
画像番号 81
画像をパソコンに取り込む 90
家庭用電源 87
カメラ
設定初期化 83
画面
表示一覧 105, 106
表示言語 18
メニュー → FUNC. メニュー

き

キャッチ AF 56
魚眼風 (撮影モード) 44
記録画素数 (画像の大きさ) 37

く

グリッドライン 38

け

消す 69
検索 64

こ

極彩色 (撮影モード) 44
故障 101

さ

サーボ AF 57
再生 → 見る
撮影
撮影情報 105
撮影日時 → 日付/時刻

し

ジオラマ風 (撮影モード) 45
消去 → 消す
初期状態 → 設定初期化
白黒画像 53

す

ズーム 19, 29, 33
ストラップ 2, 14
ストロボ
常時発光 58
スローシンクロ 58
発光禁止 59
スノー (撮影モード) 43
スライドショー 65

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリ

8 付録

索引



せ

世界時計 78
設定初期化 83
節電 23
セピア調画像 53
セルフタイマー 33
2秒セルフタイマー 34
顔セルフタイマー
(撮影モード) 47
タイマー時間と撮影枚数
を変える 34
全消去 69

そ

測光方式 51
ソフトウェア
インストール 90
パソコンへの取り込み 90

た

縦横比を変える 36
端子 87, 92

ち

中央 (AF フレームモード) 55
長秒時撮影 (撮影モード) 47

て

デジタルズーム 33
デジタルテレコンバーター 55
手ブレ補正 60
テレビで見る 87
電源 85 → AC アダプターキー
ット、→ バッテリー、→ バッテリー
チャージャー (充電器)
電池 → 日付/時刻 (日付/時刻用電
池)
節電 23

と

トイカメラ風 (撮影モード) 46
動画
画質 (記録画素数/
フレーム数) 38
撮影時間 116
編集 76
時計機能 27
トリミング
(画像の切り抜き) 73, 93

に

日時 → 日付/時刻

は

バッテリー
エコモード 79
残量表示 106
充電 15
節電 23
バッテリーチャージャー
(充電器) 2, 85
花火 → 打上げ花火 (撮影モード)

ひ

ピクトブリッジ
(PictBridge) 86, 92
日付/時刻
画像への写し込み 35
世界時計 78
設定 17
日付/時刻用電池 18
変更 17
表示言語 18
ピント合わせ
AF フレーム 55
AF ロック 58
サーボ AF 57
ピント位置拡大 39

ふ

フォーカスゾーン
遠景 55
マクロ 54
フォーカスロック 55
フォトブック指定 97
付属品 2
プリント → 印刷
プログラム AE 49

へ

編集
i-コントラスト 75
赤目補正 75
トリミング
(画像の切り抜き) 73
リサイズ
(画像を小さくする) 73
レタッチマイカラー 74

ほ

ポートレート (撮影モード) 43
保護 67
ホワイトバランス (色あい) 52

ま

マイカラー 53
マクロ (フォーカスゾーン) 54
マニュアルホワイトバランス 53

み

見る 20
1枚表示 20
インデックス表示 63
拡大表示 65
画像の検索 64
スライドショー 65
テレビで見る 87
連想再生 66

め

目つむり検出 39
メニュー
一覧 107
基本操作 25
メモリーカード → カード

も

モノクロ (撮影モード) 46

ら

ライブビューコントロール
(撮影モード) 42
ランプ 26, 40

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



り

リサイズ (画像を小さくする) 73
リストストラップ → ストラップ

れ

レタッチマイカラー 74
連想再生 66

ろ

ローライト (撮影モード) 43
露出
AE ロック 50
FE ロック 59
補正 50

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

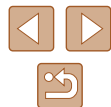
5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



■ アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打ち切り後5年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応 OS が変更になることがあります。

■ 商標、ライセンスについて

- DCF は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- Microsoft、Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OS は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- SDXC ロゴは SD-3C, LLC. の商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

■ このガイドについて

- 内容を無断で転載することは、禁止されています。
- 記載されている数値はすべて当社試験基準によります。
- 内容および製品の仕様や外観を将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 本製品を運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引



キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

■ 製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター
050-555-90005

受付時間： 平日 9:00～20:00
土・日・祝日 10:00～17:00
(1月1日～1月3日は休ませていただきます)

- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9630 をご利用ください。
- ※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 修理受付窓口

別紙でご確認ください。

■ キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報

<http://canon.jp/cdc>

キヤノンサポートページ

<http://canon.jp/support>

CANON iMAGE GATEWAY

<http://www.imagegateway.net>

リチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」にご注意下さい

国内・国外を問わず、ネットオークションでリチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」が頻繁に出回っておりますので十分にご注意ください。詳細は以下の URL よりご覧ください。

<http://cweb.canon.jp/e-support/info/battery-anno.html>

お使いになる前に

基本編

活用編

1 カメラを知る

2 オートモード

3 いろいろな撮影モード

4 Pモード

5 再生モード

6 設定メニュー

7 アクセサリー

8 付録

索引

